

PC-HELPER

CardBus対応

非絶縁型低価格高精度アナログ入出力カード

ADA16-8/2(CB)L

説明書

株式会社コンテック

梱包内容をご確認ください

このたびは、本製品をご購入いただきまして、ありがとうございます。

本製品は次の構成となっています。

構成品リストで構成品を確認してください。万一、構成品が足りない場合や破損している場合は、お買い求めの販売店、または総合インフォメーションにご連絡ください。

登録カードは、新製品情報などをお客様にお知らせする際に必要なカードです。ご記入の上、必ずご返送くださいますようお願いいたします。

構成品リスト

PCカード本体...1

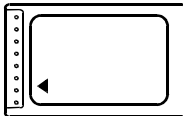
ファーストステップガイド...1

CD-ROM *1 [API-PAC(W32)]...1

登録カード & 保証書...1

登録カード返信用封筒...1

*1：CD-ROMには、ドライバソフトウェア、説明書(本書)、Question用紙を納めています。



PCカード本体



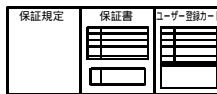
ファーストステップガイド



CD-ROM
[API-PAC(W32)]



登録カード返信用封筒



登録カード & 保証書

-
- ・ 本書の内容の全部または一部を無断で転載することは、禁止されています。
 - ・ 本書の内容に関しては、将来予告なしに変更することがあります。
 - ・ 本書の内容については万全を期しておりますが、万一ご不審な点や記載もれなどお気づきのことがありましたら、お買い求めの販売店、または総合インフォメーションへご連絡ください。
 - ・ MS、Microsoft、Windows、Windows NTは、米国Microsoft Corporationの各国における登録商標または商標です。その他、本書中に使用している会社名および製品名は、一般に各社の商標または登録商標です。

目次

梱包内容をご確認ください.....	i
目次	iii

第 1 章 ご使用になる前に 1

概要	1
特長	1
サポートソフトウェア	2
ケーブル (別売)	4
アクセサリ (別売)	4
サポートのご案内	5
ホームページ	5
総合インフォメーション(お問い合わせ窓口)	5
修理窓口	6
製品貸出サービス	6
各種セミナー	6
FA/LA無料相談コーナー	6
システム受託開発、OEM受託	6
安全にご使用いただくために	7
安全情報の表記	7
取り扱い上の注意事項	8
環境	9
点検	9
保管	9
廃棄	9

第 2 章 セットアップ 11

セットアップとは	11
Windows で使用する ドライバライブラリ API-PAC(W32)を使用する	11
Windows で使用する ドライバライブラリ API-PAC(W32)以外を使用する	11
Windows 以外の OS で使用する	12
ステップ 1 ソフトウェアのインストール	13
使用するドライバについて	13
インストールプログラムの起動	14
ステップ 2 ハードウェアの設定	16
接続ケーブルとPCカードの接続	16
PCカードの挿入	17
PCカード[ADA16-8/2(CB)L]を2枚以上使用するときの注意	18
ステップ 3 ハードウェアのインストール	19
パソコンの電源投入	19
API-AIO(WDM)を使用する場合	19
ステップ 4 ソフトウェアの初期設定	21

ステップ5 診断プログラムによる動作確認	23
診断プログラムとは	23
確認方法	23
診断プログラムの操作方法	24
セットアップが正常にできないときには	28
事例と対応方法	28
解決できないときには	28

第3章 外部機器との接続 29

コネクタの接続方法	29
コネクタの形状	29
コネクタの信号配置	30
アナログ入力信号の接続	33
シングルエンド入力の接続例	33
アナログ出力信号の接続	34
デジタル入出力信号、カウンタ信号、 制御信号の接続	35

第4章 機能の説明 37

アナログ入力機能	37
1.変換条件の設定	38
2.動作開始 / 停止	45
3.状態監視 / データ取得	46
4.リセット	49
アナログ出力機能	50
1.変換条件の設定	51
2.動作開始 / 停止	58
3.状態監視 / データ取得	59
4.リセット	60
カウンタ機能	61
1.動作条件の設定	61
2.動作開始 / 停止	62
3.状態監視 / データ取得	62
4.リセット	63
デジタル入力機能	64
デジタル出力機能	65

第5章 ソフトウェアについて 67

CD-ROMの内容	67
Windows版ソフトウェアについて	68
ヘルプファイルの参照方法	68
サンプルプログラムの利用方法	69
ユーティリティプログラムの利用方法	72

ドライバライブラリのアンインストール.....	77
Linux版ソフトウェアについて.....	78
ドライバソフトウェアのインストール手順.....	78
ヘルプファイルの参照方法.....	79
サンプルプログラムの利用方法.....	79
ドライバのアンインストール.....	79

第 6 章 ハードウェアについて	81
-------------------------	-----------

詳細技術情報の参照先.....	81
ハードウェア仕様.....	82
回路ブロック図.....	84
制御信号の動作タイミング.....	85
アナログ入力機能の制御信号のタイミング.....	85
アナログ出力機能の制御信号のタイミング.....	86
カウンタ機能の制御信号のタイミング.....	87
校正について.....	88

第1章 ご使用になる前に

概要

本製品は、高精度アナログ入力、高精度アナログ出力、デジタル入力、デジタル出力、カウンタ機能を搭載した、PC Card Standard準拠CardBus対応TYPE サイズのPCカードです。

このPCカードだけで、さまざまな高精度のパソコン計測制御システムを構築することができます。

添付のドライバライブラリ [API-PAC(W32)] を使用することで、Visual BasicやVisual C++などのWin32API関数をサポートしている各種プログラミング言語でWindows用のアプリケーションソフトウェアを作成することができます。

さらに、添付のCD-ROMに同梱されているデータロガーソフトウェア[C-LOGGER]を使用することにより、プログラムレスで簡単にデータ収集を行うことができます。

また、専用ライブラリのプラグインでMATLABやLabVIEWにも対応します。

特長

基本機能の充実

コンパクトなシステムで高精度のアナログ入出力を実現。

ADA16-8/2(CB)Lは、アナログ入力(16bit、8ch)、アナログ出力(16bit、2ch)、アナログ入出力の制御信号(6点)、デジタル入力(4点)、デジタル出力(4点)、カウンタ(32bit、1ch)を搭載しています。

制御機能の充実

アナログ入出力は、共に時間毎の入出力や外部信号に同期した入出力が可能です。

外部信号の接続を容易にするフィルタ機能搭載

アナログ入出力の外部制御信号、デジタル入力信号、カウンタ入力信号には、チャタリングなどを防止することのできるデジタルフィルタを備えています。

バッファメモリを搭載

アナログ入力とアナログ出力それぞれにバッファメモリを搭載しています。

ソフトウェアやパソコンの動作状況に依存しないバックグラウンドでのアナログ入出力を行うことも可能です。

ソフトウェアで調整が可能

アナログ入力とアナログ出力の調整は、すべてソフトウェアで行うことができます。

面倒なジャンパ設定はありません。また、工場出荷時の調整情報とは別の調整情報を記憶することができ、使用環境に応じた調整情報を持つことができます。

デスクトップパソコン、ノートパソコンで同様のシステムを実現可能

「アナログLシリーズ」であるADA16-8/2(LPCI)LとADA16-8/2(CB)Lは、同様の機能を備えています。

デスクトップパソコンで構築したシステム資産を、ほとんどそのままノートパソコンシステムに移すことができます。

データロガーソフトウェア[C-LOGGER]に対応

収録した信号データのグラフ表示、ファイル保存、表計算ソフトウェアExcelへのダイナミック転送などが可能な、データロガーソフトウェア[C-LOGGER]に対応しています。

専用ライブラリのプラグインでMATLABやLabVIEWに対応

The MathWorks社のMATLABで本製品を使用するための専用ライブラリ[ML-DAQ]およびLabVIEWで使用するための専用ライブラリ[VI-DAQ]を用意しています。

各専用ライブラリは、当社ホームページより無償提供(ダウンロード)しています。

サポートソフトウェア

目的、開発環境に合わせて当社製サポートソフトウェアのご使用をお勧めします。

ドライバライブラリ API-PAC(W32) (添付)

当社ハードウェアへのコマンドをWindows標準のWin32API関数(DLL)形式で提供するライブラリソフトウェアです。Visual BasicやVisual C++などのWin32API関数をサポートしている各種プログラミング言語で、当社ハードウェアの特色を活かした高速なアプリケーションソフトウェアが作成できます。

また、インストールされた診断プログラムにより、ハードウェアの動作確認にも利用することができます。

最新ドライバおよび差分ファイルのダウンロードサービス(<http://www.contec.co.jp/apipac/>)も行っています。

詳細は、添付CD-ROM内のHelpまたは当社ホームページを参照してください。

<動作環境>

主な対応OS Windows XP、Server 2003、2000、Me、98など

主な適応言語 Visual C++、.NET、Visual C#、.NET、Visual Basic、.NET、Visual C++、Visual Basic、Delphi、C++Builderなど

Linux版アナログ入出力ドライバ API-AIO(LNX) (添付:API-PAC(W32) CD-ROM同梱)

Linuxで当社製アナログ入出力ボード(カード)の制御を行うための、ドライバソフトウェアです。

gccで使用するシェアードライブラリと、各カーネルバージョンごとのデバイスドライバ(モジュール)、ボード(カード)を設定するプログラム(config)により、当社製アナログ入出力ボードを簡単に制御できます。

最新ドライバおよび差分ファイルのダウンロードサービス(<http://www.contec.co.jp/apipac/>)も行っています。

詳細は、添付CD-ROM内のHelpまたは当社ホームページを参照してください。

<動作環境>

主な対応OS RedHatLinux、TurboLinuxなど、
(対応ディストリビューションの詳細は、インストール後のHelpを参照してください。)

主な適応言語 gcc

その他 20MBの空き領域を持つハードディスクが必要

データロガーソフトウェア C-LOGGER (添付:API-PAC(W32) CD-ROM同梱)

C-LOGGERは、当社製アナログ入出力製品対応したデータロガーソフトウェアです。収録した信号データのグラフ表示やズーム観測、ファイル保存、表計算ソフトウェアExcelへのダイナミック転送が行えます。面倒なプログラミングは一切ありません。

最新バージョンのダウンロードサービス(<http://www.contec.co.jp/clogger/>)も行っています。

詳細は、C-LOGGERのユーザーズガイドまたは当社ホームページを参照してください。

<動作環境>

主な対応OS Windows XP、Server 2003、2000

計測システム開発用ActiveXコンポーネント集 ACX-PAC(W32) (別売)

本製品は、200種類以上の当社計測制御用インターフェイスボード(PCカード)に対応した計測システム開発支援ツールです。

計測用途に特化したソフトウェア部品集で画面表示(各種グラフ、スライダ 他)、解析・演算(FFT、フィルタ 他)、ファイル操作(データ保存、読み込み)などのActiveXコンポーネントを満載しています。

アプリケーションプログラムの作成は、ソフトウェア部品を貼り付けて、関連をスクリプトで記述する開発スタイルで、効率よく短期間でできます。

また、データロガーや波形解析ツールなどの実例集(アプリケーションプログラム)が収録されていますので、プログラム作成なしでパソコン計測がすぐに始められます。

「実例集」は、ソースコード(Visual Basic 他)付きですので、お客様によるカスタマイズも可能です。

詳細は、当社ホームページ(<http://www.contec.co.jp/acxpac/>)でご確認ください。

MATLAB対応データ収録用ライブラリ ML-DAQ (当社ホームページよりダウンロード(無償)ができます)

The MathWorks社のMATLABで当社アナログ入出力デバイス製品を使用するためのライブラリソフトウェアです。各機能は、MATLABのData Acquisition Toolboxで統一されたインターフェイスに合わせて提供されます。詳細、およびML-DAQのダウンロードは <http://www.contec.co.jp/mldaq/> を参照してください。

LabVIEW対応データ集録用VIライブラリ VI-DAQ (当社ホームページよりダウンロード(無償)ができます)

National Instruments社のLabVIEWで使用するためのVIライブラリです。

LabVIEWの「データ集録VI」に似た関数形態で作成されているため、複雑な設定をすることなく、簡単に各種デバイスが使用できます。

詳細、およびVI-DAQのダウンロードは <http://www.contec.co.jp/vidaq/> を参照してください。

ケーブル (別売)

68ピン-halfピッチコネクタ用片端コネクタ付シールドケーブル

: PCA68PS-0.5P (0.5m)

: PCA68PS-1.5P (1.5m)

アナログ入出力用68ピン-50ピン変換シールドケーブル

: ADC-68M/50M (0.5m)

アクセサリ (別売)

圧着用中継端子台 : EPD-50A*1

バッファアンプ機能増設ボックス(入力8chタイプ) : ATBA-8L *1*3

バッファアンプ機能増設ボックス(入力16chタイプ) : ATBA-16L *1*2*3

BNCコネクタ中継端子台 : ATP-8L *1

*1 オプションケーブルADC-68M/50Mが別途必要。

*2 アナログ入力は8chまで使用可能です。

*3 外部電源が必要(別売のACアダプタ POA200-20を用意)
各アクセサリの詳細は、当社ホームページでご確認ください。

サポートのご案内

当社製品をより良く、より快適にご使用いただくために、次のサポートを行っております。

ホームページ

日本語 <http://www.contec.co.jp/>
英語 <http://www.contec.com/>
中国語 <http://www.contec.com.cn/>

最新製品情報

製品の最新情報を提供しています。
また、PDFファイル形式の製品マニュアル、各種技術資料なども提供しています。

無償ダウンロード

最新のドライバ、差分ファイルをダウンロードできます。
また、各種言語のサンプルプログラムもダウンロードできます。

資料請求

カタログの請求が行えます。

製品貸出サービス

製品貸出の依頼が行えます。

イベント情報

当社主催/参加のセミナーおよび展示会の紹介を行っています。

総合インフォメーション(お問い合わせ窓口)

技術的なお問い合わせ

当社製品に関する技術的なお問い合わせは、総合インフォメーションで受け付けています。
E-mail(tsc@contec.co.jp)またはFAX*1でお問い合わせください。専門のスタッフが対応します。
添付CD内またはホームページ(<http://www.contec.co.jp/top5.htm>)にあるQuestion用紙に必要事項を記入の上、お送りください。

*1 FAX番号はQuestion用紙に記載されています。

その他の製品情報のお問い合わせ

製品の価格・納期・見積もり依頼などのお問い合わせは、販売店または当社各支社・営業所までお問い合わせください。

修理窓口

修理の依頼は、お買い求めの販売店経由で受け付けています。

保証書に記載の条件のもとで、保証期間中に製品自体に不具合が認められた場合は、その製品を無償で修理または交換いたします。

保証期間終了後、または保証条件外での修理は、有償修理となりますのであらかじめご了承ください。

なお、対象は製品のハードウェア部分の修理に限らせていただきます。

製品貸出サービス

製品を評価・理解していただくため、製品の貸出サービスを行っております。

詳細は、当社ホームページをご覧ください。

各種セミナー

新製品の紹介・活用方法、システム構築のための技術習得など、各種セミナーを行っております。

出張プライベートセミナーも承ります。詳細は、当社ホームページをご覧ください。

FA/LA無料相談コーナー

「FA/LA無料相談コーナー」は、お客様がシステムを構築する際に当社製品の選定の相談をお受けする窓口です。面談によるシステム相談を専門スタッフが担当いたします。

お問い合わせは、当社各支社・営業所までご連絡ください。

システム受託開発、OEM受託

ソフトウェア/ハードウェアの導入方法やシステム構築のご相談、お客様オリジナル・デザインのシステムを製品化し供給するODMやOEMのご提案を行います。




詳しくは、E-mail(sales@contec.co.jp)または当社各支社・営業所までお問い合わせください。

安全にご使用いただくために

次の内容をご理解の上、本製品を安全にご使用ください。

安全情報の表記

本書では、人身事故や機器の破壊をさけるため、次のシンボルで安全に関する情報を提供しています。内容をよく理解し、安全に機器を操作してください。

 危険	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。
 警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が損害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

取り扱い上の注意事項

⚠ 危険

周囲に発火性、腐食性のガスがある場所で使用しないでください。爆発、火災、感電、故障の原因となります。

⚠ 注意

- ・ PCカードは、パソコンのPC Card Standard準拠CardBus対応のPCカードスロットに実装して使用してください。
 - ・ PCカードに衝撃を与えたり、曲げたりしないでください。
誤動作、発熱、故障、破損の原因になります。
 - ・ パソコンの電源が入った状態で、PCカードに接続されたケーブルを、抜挿ししないでください。
誤動作、発熱、故障の原因になります。
必ずパソコン本体の電源を切ってから行ってください。
 - ・ パソコンの電源が入った状態で、PCカードを拡張スロットに実装したり、抜いたりしないでください。誤動作、発熱、故障の原因になります。
必ずパソコン本体の電源を切ってから行ってください。
 - ・ 本製品は機能追加、品質向上のため予告なく仕様を変更する場合があります。
継続的にご利用いただく場合でも、必ず説明書を読み、内容を確認してください。
 - ・ 本製品を改造しないでください。
改造をしたものに対しては、当社は一切の責任を負いません。
 - ・ 本製品の運用を理由とする損失、逸失利益などの請求につきましては、前項にかかわらず、いかなる責任も負いかねますのであらかじめご了承ください。
 - ・ 省電力モード(スタンバイモード)には対応していません。
 - ・ PCカードスロットによって消費電流が制限されている場合があります。ご使用のパソコンの説明書などでご確認ください。
-

ADA16-8/2(CB)LはクラスA情報処理装置に分類されます。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

環境

本製品は下記の環境でご使用ください。範囲外の環境で使用した場合、発熱、誤動作、故障の原因になります。

周囲温度

0 - 50

周囲湿度

10 - 90%RH(ただし、結露しないこと)

腐食性ガス

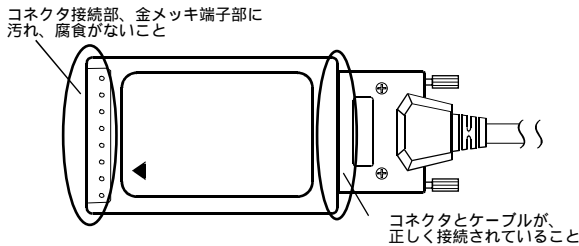
ないこと

浮遊粉塵

特にひどくないこと

点検

本製品を安全に使用していただくために、定期的に点検を行ってください。



保管

本製品を保管する際には、購入時の状態で保管してください。

- (1) PCカードを保管袋に入れます
- (2) 梱包材で包み、箱に入れます。
- (3) 直射日光や湿気、衝撃や振動、磁気や静電気を避けて、常温で保管してください。

廃棄

本製品を廃棄される場合、法律や市町村の条令に定める廃棄方法に従って、廃棄してください。

第2章 セットアップ

本章では、セットアップの方法について説明しています。

セットアップとは

セットアップとは、本製品を使用するために必要な事前の操作です。
ソフトウェアとハードウェアのそれぞれに必要な操作があります。
使用するOS、ソフトウェアによってセットアップの手順が異なります。

Windowsで使用する

ドライバライブラリ API-PAC(W32)を使用する

添付のCD-ROM「ドライバライブラリ API-PAC(W32)」を使って、アプリケーションプログラム開発をはじめるまでの手順について説明します。

次に示す、本章の各ステップの手順で操作することで、ソフトウェアとハードウェアの準備ができます。その後に診断プログラムによる動作確認を行い、ソフトウェア、ハードウェアが正常に動作するかを確認することができます。

ステップ1 ソフトウェアのインストール

ステップ2 ハードウェアの設定

ステップ3 ハードウェアのインストール

ステップ4 ソフトウェアの初期設定

ステップ5 診断プログラムによる確認

また、セットアップが正常に行えない場合は、「本章 セットアップが正常にできないときは」を参照してください。

Windowsで使用する

ドライバライブラリ API-PAC(W32)以外を使用する

API-PAC(W32)以外のソフトウェアを使用する場合の手順は、それぞれのマニュアルを参照してください。また、必要に応じて以下を参照してください。

本章 ステップ2 ハードウェアの設定

本章 ステップ3 ハードウェアのインストール

第3章 外部機器との接続

第6章 ハードウェアについて

Windows以外のOSで使用する

Linuxで使用する場合は、以下を参照してください。

- 本章** ステップ2 ハードウェアの設定
- 第3章** 外部機器との接続
- 第5章** ソフトウェアについて
- 第6章** ハードウェアについて

Windows , Linux以外のOSで使用する場合は、以下を参照してください。

- 本章** ステップ2 ハードウェアの設定
- 第3章** 外部機器との接続
- 第6章** ハードウェアについて

ステップ1 ソフトウェアのインストール

ドライバライブラリのインストール方法を示します。

ハードウェアをパソコンに実装する前に、添付のAPI-PAC(W32)のCD-ROMからドライバライブラリをインストールしてください。

ここでは、Windows XPを中心に説明しています。OSによって画面表示が異なる場合もありますが、基本的な手順は同じです。

使用するドライバについて

アナログ入出力ドライバには、“API-AIO(WDM)”と“API-AIO(98/PC)W95/NT”という2つのドライバがあります。

API-AIO(WDM)は、Windows上でアナログ入出力を行うための新しいドライバです。

従来製品版のAPI-AIO(98/PC)に対して「より使いやすく便利に」「より高機能に」を目指して開発されました。

本製品をご使用の場合、API-AIO(WDM)を使用してください。API-AIO(98/PC)W95/NTではサポートしていません。

インストールプログラムの起動

- (1) CD-ROM [API-PAC(W32)] をパソコンにセットします。
- (2) 「インストーラ」画面が自動的に表示されます。
表示されなかった場合は、(CD-ROMドライブ名):¥AUTORUN.EXEを実行してください。
- (3) 「ドライバのインストール」ボタンをクリックします。

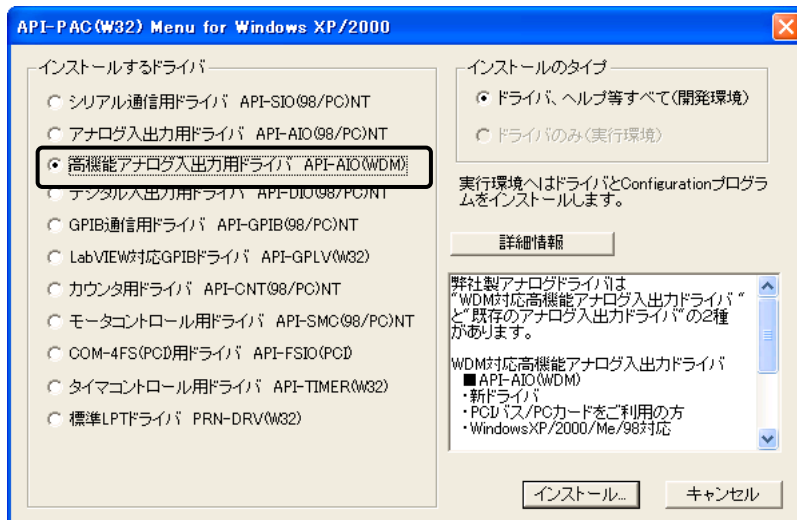


注意

Windows XP、2000にインストールする場合は、Administrator権限を持つユーザーでログインしてください。

API-AIO(WDM)の選択

- (1) 「インストールするドライバ」と「インストールのタイプ」の選択画面が表示されます。
- (2) 「高機能アナログ入出力用ドライバ」を選択します。
- (3) 「インストール」ボタンをクリックします。



[詳細情報]ボタンをクリックするとAPI-AIO(WDM)、API-AIO(98/PC)に関する詳細情報が表示されます。

インストールの実行

- (1) 画面の指示に従ってインストール作業を進めます。
- (2) インストール終了後、Readmeファイルが表示されます。

これでソフトウェアのインストールは完了です。

ステップ2 ハードウェアの設定

接続ケーブルとPCカードの接続

接続オプションケーブル[ADC-68M/50MまたはPCA68PS-**]のPCカード側のコネクタとPCカード本体[ADA16-8/2(CB)L]を接続してください。コネクタの平らな面とPCカードの表面を合わせ、図2.1のように接続してください。

⚠ 注意

接続するときは、接続ケーブルのコネクタとPCカード接合部の向きを合わせ、まっすぐに差し込んでください。PCカードの接合部に無理な力をかけると、接合部の破損や接触不良の原因となります。

また、パソコンの電源が入った状態でコネクタの挿抜はしないでください。

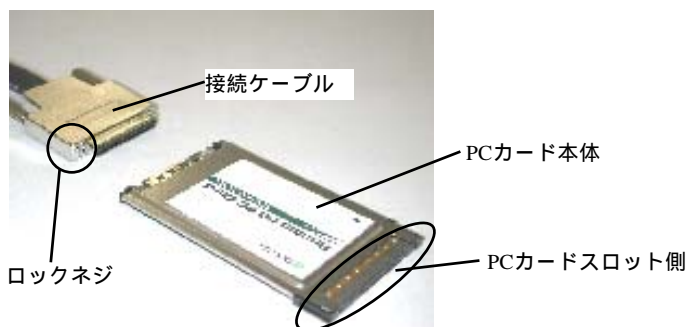


図2.1 接続ケーブルとPCカードの接続

PCカードの挿入

パソコンの電源がOFFになっていることを確認し、パソコンのPCカードスロットにPCカードを挿入してください。

PCカードの 印の向きに従って、図2.2のようにPCカードスロットに確実に差し込んでください。PCカードには誤挿入防止キーが付いていますが、無理に差し込むとPCカードスロットやPCカードの故障の原因になります。また、パソコンによってはPCカードの表面を下にして挿入するPCカードスロットがありますので確認の上、挿入してください。

PCカードを取り外すときは、使用するパソコンのマニュアルを参照してください。

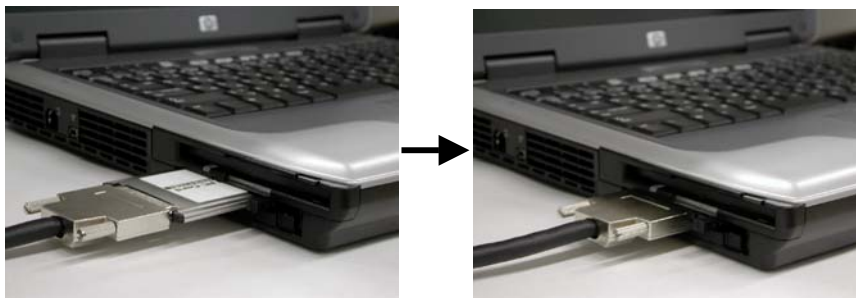


図2.2 PCカードの挿入

⚠ 注意

次の行為は、PCカード本体および接合部の破損や接触不良の原因となりますので、行わないでください。

- ・ PCカードを所定の方向および手順以外の方法で、挿入しないでください。
- ・ 接続ケーブルまたはケーブルのコネクタをもって、PCカードを挿入しないでください。
- ・ 接続ケーブルのコネクタを接続したまま、パソコンを移動しないでください。
- ・ 接続ケーブルのコネクタを無理に引っ張るなどして、PCカードの接合部に力をかけないでください。
- ・ 接続ケーブルのコネクタの上に、物を置かないでください。

PCカード[ADA16-8/2(CB)L]を2枚以上使用するときの注意

TYPE IIサイズのPCカードスロットが縦に2つ並んでいるパソコンの場合、両方のスロットでPCカード[ADA16-8/2(CB)L]を2枚同時に使用することはできません。これはケーブルコネクタの形状によるものです。

PCカード[ADA16-8/2(CB)L]をメモ리카ードなど外部コネクタを使用しないPCカードと同時に使用することは可能です。

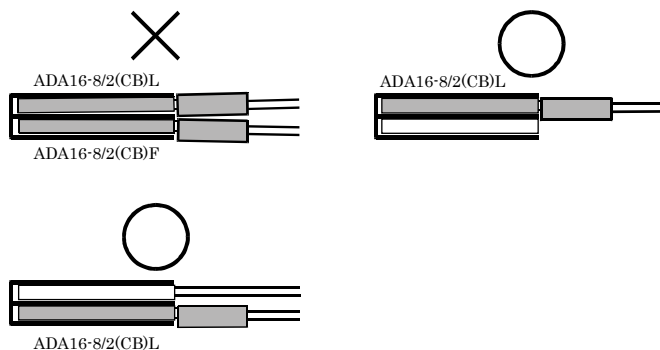


図2.3 PCカード[ADA16-8/2(CB)L]を2枚以上使用するときの注意

⚠ 注意

PCカードスロットの数や配置およびドライバの仕様によって、2枚以上の使用が制限される場合があります。ドライバの仕様については、ドライバのヘルプファイルを参照ください。

ステップ3 ハードウェアのインストール

Windowsでは、PCカードが使用するI/Oアドレスと割り込みレベルをOSに認識させる必要があります。これをハードウェアのインストールと呼びます。

複数枚のPCカードを使用する場合は、必ず1枚ずつ設定が完了してから次のPCカードをインストールしてください。

パソコンの電源投入

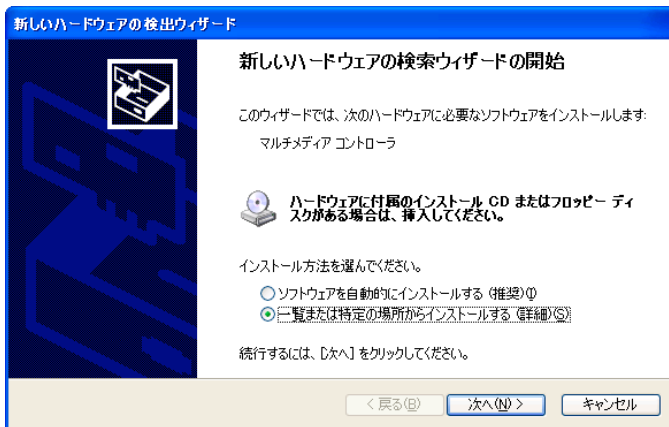
パソコンの電源を入れてください。

⚠ 注意

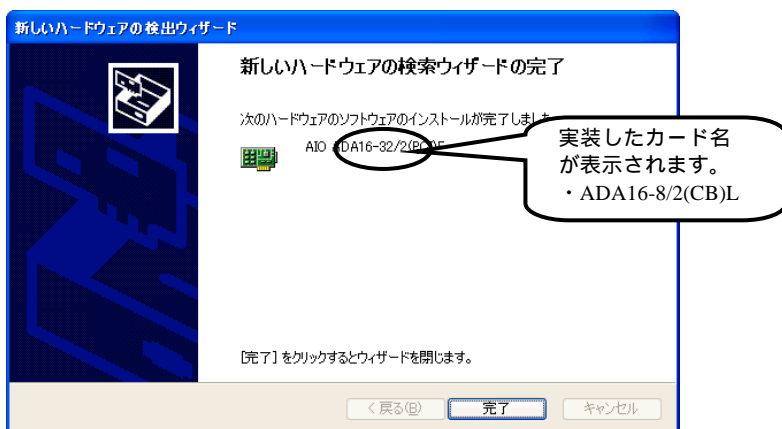
- PCカードが使用するリソース(I/Oアドレス、割り込みレベル)を確保できない場合は、正常なインストールは行えません。あらかじめ、パソコンの使用可能なリソースを確認してからインストールを行ってください。
- PCカードが使用するリソースは、スロットの位置やPCカード本体に依存しません。そのため、2枚以上のPCカードのインストールが完了している状態で、2枚以上のPCカードを取り外し、その後で再度実装する場合は、実装しなおしたPCカードに割り当てられるリソースが、はじめにインストールした設定のうちのどの設定になるか特定できません。この場合は、再度設定を確認してください。

API-AIO(WDM)を使用する場合

- 「新しいハードウェアの検出ウィザード」が起動します。
「一覧または特定の場所からインストールする（詳細）」を選択し「次へ」ボタンをクリックします。



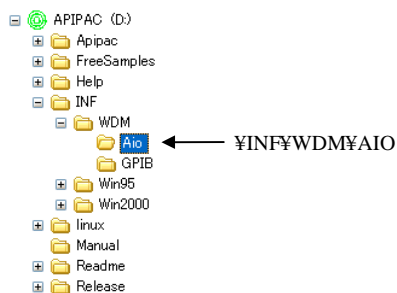
- (2) CD-ROMからセットアップ情報(INF)ファイルのあるフォルダを指定して、登録を行います。



指定先フォルダ

セットアップ情報(INF)ファイルは、添付CD-ROMの以下のフォルダにあります。

¥INF¥WDM¥AIO



これでハードウェアのインストールは完了です。

ステップ4 ソフトウェアの初期設定

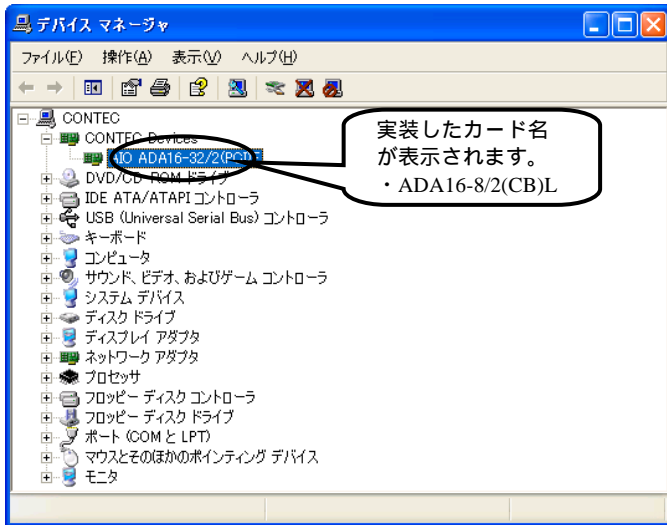
ドライバライブラリでは実行環境を認識するための最初の設定が必要です。これをドライバライブラリの初期設定と呼びます。

⚠ 注意

デバイス名の設定は、コンピュータの起動中にカードを抜き差しした場合にも行ってください。

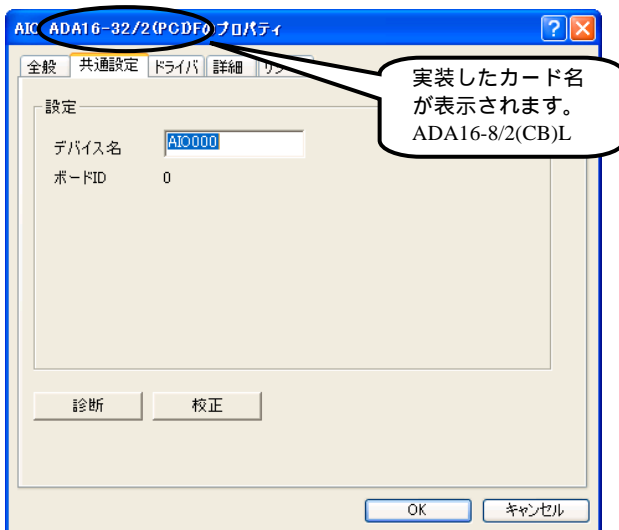
デバイス名の設定

- (1) デバイスマネージャを起動します。



- (2) インストールしたハードウェアは、CONTEC Devicesツリーの下に登録されています。デバイスツリーを開き、設定するデバイスを選択して反転表示させてください。[プロパティ]をクリックします。

- (3) デバイスのプロパティページが表示されます。
共通設定タブでデバイス名を入力して[OK]をクリックしてください。
ここで設定したデバイス名は、後のプログラミング時に必要になります。



最初に表示されているデバイス名は初期値です。このままのデバイス名を使用しても構いません。

デバイス名は、複数のデバイス間で重複しないように決定してください。

これでソフトウェアの初期設定は完了です。

ステップ5 診断プログラムによる動作確認

診断プログラムを使用して、PCカードやドライバが正常に動作することを確認します。この確認でセットアップが正しくできたことを確認できます。

診断プログラムとは

診断プログラムは、PCカードとドライバの状態を診断するプログラムです。

実際に外部機器を接続したときの簡易動作確認として使用することもできます。

また、“診断レポート”機能を使用して、ドライバ設定、PCカード存在有無、I/O状況、割り込み状況がレポートとして作成されます。

確認方法

アナログ入出力データの確認を行うには、PCカード内でアナログ出力(チャンネル0)をアナログ入力に直接接続するループバックまたは外部に信号源の接続を行ってください。

ループバックで確認を行う場合は、外部との接続は不要です。

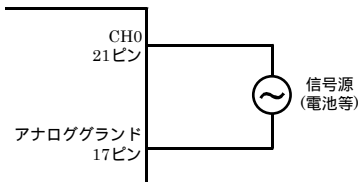
外部と信号を接続して確認する場合の例を以下に示します。

図の例は、ADA16-8/2(CB)Lでチャンネル0を使用する例です。接続方法の詳細に関しては、「第3章 外部機器との接続」を参照してください。

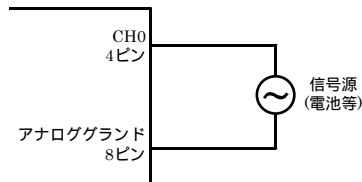
結線図

<アナログ入力>

ADC-68M/50Mの場合



PCA68PS-**の場合

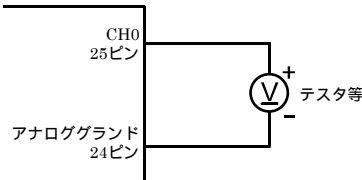


⚠ 注意

入力端子が未接続のときの変換データは不定です。信号源に接続しないチャンネルの入力端子は、アナロググランドと短絡してください。詳細は、「第3章 外部機器との接続」を参照してください。

<アナログ出力>

ADC-68M/50Mの場合



PCA68PS-**の場合

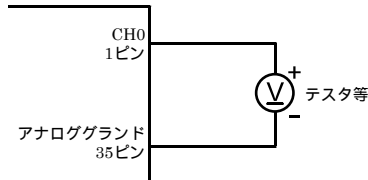
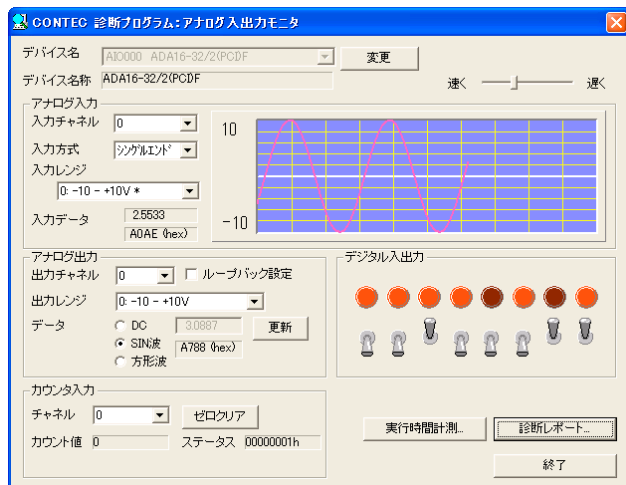
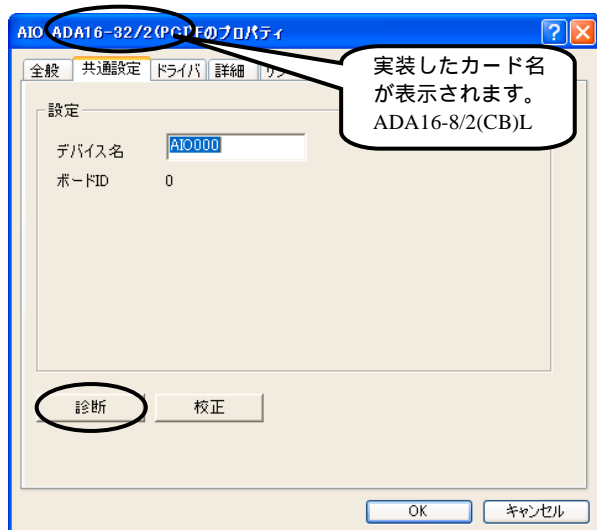


図2.4 結線図

診断プログラムの操作方法

診断プログラムの起動

デバイスのプロパティページから[診断]ボタンをクリックして、診断プログラムを起動します。



アナログ入力

入力チャンネル、入力方式、入力レンジが一覧から選択可能です。

入力データはグラフに表示されます。

アナログ出力

出力チャンネル、出力レンジが一覧から選択可能です。

出力データとしてDC(一定電圧)、SIN波、方形波を選択できます。

デジタル入出力

上部の丸いランプはデジタル入力の状態を表しており、ビットONで赤色表示、ビットOFFで茶色表示になります。

下部のスイッチをクリックすることにより、デジタル出力ビットのON / OFFを切り替えることができます。

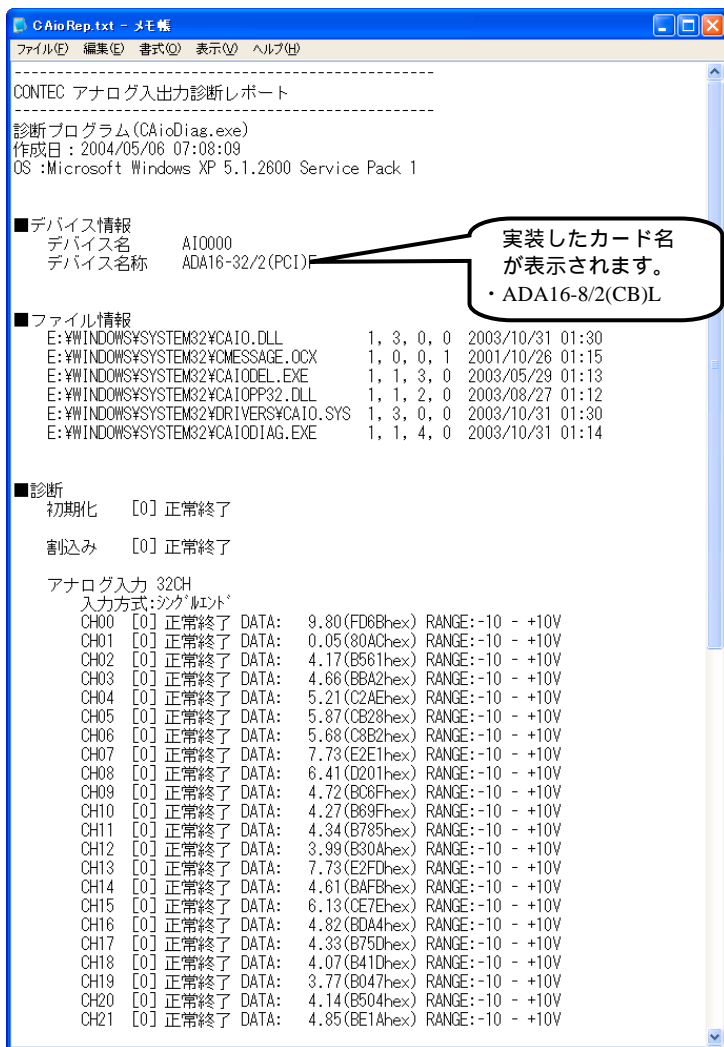
カウンタ入力

カウンタチャンネルを選択すると、そのカウンタのカウント値とステータスが表示されます。ゼロクリアボタンをクリックするとカウント値が0にリセットされます。

診断レポート

- (1) 診断レポートはデバイスの設定、各チャンネルの設定などの詳細データと診断結果をテキストファイルに保存し表示します。

「診断レポート」をクリックすると診断レポートの保存場所を聞いてくるので、適当な場所に保存してください。



(2) 診断レポートには次の情報が保存されます。

- ・ OSのバージョン
- ・ デバイス情報
- ・ ファイル情報
- ・ 初期化、割り込み、各チャネルの入出力状態

実行時間計測

「実行時間計測」をクリックすると、関数実行速度測定プログラムが起動します。

このプログラムに関する説明は、「5章 関数実行速度測定プログラム」を参照してください。

セットアップが正常にできないときには

事例と対応方法

データが正常に入力、出力できない場合

- ・ 診断プログラムを実行し、デバイスが登録されているか、初期化エラーがないかなどを確認してください。
- ・ デバイスの設定、配線方法などに問題はありませんか？ 入出力レンジの設定を確認してください。また、配線が未接続の状態では入力データが不定となります。使用するチャンネルは必ず配線を行ってください。使用しないチャンネルは、アナロググランドと短絡してください。
- ・ 電圧入力時、適当な信号源がない場合は、電池を接続したりチャンネルをアナロググランドと短絡して0Vになるかを確認してください。

診断プログラムで動作してアプリケーションで動作しない場合

診断プログラムは、API-TOOLの関数を使用し作成されています。診断プログラムが動作する場合は、他のアプリケーションでも動作します。この場合、以下の点に注意してプログラムを見直してください。

- ・ 関数の戻り値を確認してください。
- ・ サンプルプログラムのソースコードを参考にしてください。

OSが正常に起動しない、デバイスを正常に認識しない場合

API-AIO(WDM) HELPの「トラブルシューティング」を参考にしてください。

解決できないときには

API-AIO HELPのトラブルシューティングを参照後、さらに不明点があれば診断プログラムの「診断レポート」で作成されたレポートを添付して総合インフォメーション (tsc@contec.co.jp) へE-mailにてお送りください。

添付CD内またはホームページ(<http://www.contec.co.jp/top5.htm>)にあるQuestion用紙に必要事項を記入の上、お送りください。

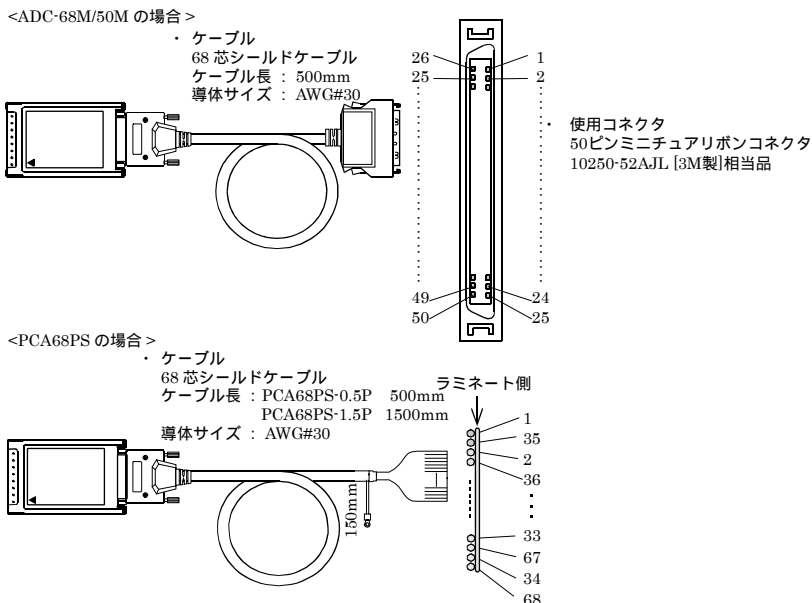
第3章 外部機器との接続

本章では、インターフェイスコネクタおよび外部入出回路についての説明をしています。
外部機器と接続する場合に参照してください。

コネクタの接続方法

コネクタの形状

本製品と外部機器との接続は、接続オプションケーブル(ADC-68M/50M)で行います。このケーブルと端子台を使用して、外部機器と結線を行います。



* 対応するケーブル・アクセサリは、第1章を参照ください。

図3.1 インターフェイスコネクタの形状

コネクタの信号配置

ADA16-8/2(CB)Lインターフェイスコネクタの信号配置

Analog Output 00	AO 00	1	35	- AGND	Analog Ground (for AO)
Analog Output 01	AO 01	2	36	- AGND	Analog Ground (for AO)
Analog Ground (for AO)	AGND	3	37	- AGND	Analog Ground (for AO)
Analog Input 00	AI 00	4	38	- N.C.	Non Connect
Analog Input 01	AI 01	5	39	- N.C.	Non Connect
Analog Input 02	AI 02	6	40	- N.C.	Non Connect
Analog Input 03	AI 03	7	41	- N.C.	Non Connect
Analog Ground (for AI)	AGND	8	42	- AGND	Analog Ground (for AI)
Analog Input 04	AI 04	9	43	- N.C.	Non Connect
Analog Input 05	AI 05	10	44	- N.C.	Non Connect
Analog Input 06	AI 06	11	45	- N.C.	Non Connect
Analog Input 07	AI 07	12	46	- N.C.	Non Connect
Analog Ground (for AI)	AGND	13	47	- AGND	Analog Ground (for AI)
Non Connect	N.C.	14	48	- N.C.	Non Connect
Non Connect	N.C.	15	49	- N.C.	Non Connect
Non Connect	N.C.	16	50	- N.C.	Non Connect
Non Connect	N.C.	17	51	- N.C.	Non Connect
Analog Ground (for AI)	AGND	18	52	- AGND	Analog Ground (for AI)
Non Connect	N.C.	19	53	- N.C.	Non Connect
Non Connect	N.C.	20	54	- N.C.	Non Connect
Non Connect	N.C.	21	55	- N.C.	Non Connect
Non Connect	N.C.	22	56	- N.C.	Non Connect
AI External Start Trigger Input	AI START	23	57	- AI STOP	AI External Stop Trigger Input
AI External Sampling Clock Input	AI EXCLK	24	58	- DGND	Digital Ground
Non Connect	N.C.	25	59	- N.C.	Non Connect
AO External Start Trigger Input	AO START	26	60	- AO STOP	AO External Stop Trigger Input
AO External Sampling Clock Input	AO EXCLK	27	61	- DGND	Digital Ground
Non Connect	N.C.	28	62	- N.C.	Non Connect
Digital Input 00	DI 00	29	63	- DI 01	Digital Input 01
Digital Input 02	DI 02	30	64	- DI 03	Digital Input 03
Digital Output 00	DO 00	31	65	- DO 01	Digital Output 01
Digital Output 02	DO 02	32	66	- DO 03	Digital Output 03
Counter Gate Control Input	CNT GATE	33	67	- CNT OUT	Counter Output
Counter UP Clock Input	CNT UPCLK	34	68	- Reserved	Reserved

Analog Input00 to Analog Input07	アナログ入力信号です。番号はチャネル番号に対応します。
Analog Output00 to Analog Output01	アナログ出力信号です。番号はチャネル番号に対応します。
Analog Ground	アナログ入出力信号に共通のアナロググランドです。
AI External Start Trigger Input	アナログ入力用サンプリング開始条件の外部トリガ入力信号です。
AI External Stop Trigger Input	アナログ入力用サンプリング停止条件の外部トリガ入力信号です。
AI External Sampling Clock Input	アナログ入力用外部サンプリングクロック入力信号です
AO External Start Trigger Input	アナログ出力用サンプリング開始条件の外部トリガ入力信号です。
AO External Stop Trigger Input	アナログ出力用サンプリング停止条件の外部トリガ入力信号です。
AO External Sampling Clock Input	アナログ出力用外部サンプリングクロック入力信号です
Digital Input00 to Digital Input03	デジタル入力信号です。
Digital Output00 to Digital Output03	デジタル出力信号です。
Counter Gate Control Input	カウンタのゲート制御入力信号です。
Counter Up Clock Input	カウンタのアップクロック入力信号です。
Counter Output	カウンタの出力信号です。
Digital Ground	デジタル入出力信号、外部トリガ入力信号、外部サンプリングクロック入 力信号、カウンタ入出力信号に共通のデジタルグランドです。
Reserved	このピンは予約です。
N.C.	このピンはどこにも接続されていません。

図3.2 インターフェイスコネクタの信号配置

ADC-68M/50Mを使用した場合の信号配置

Analog Output 00	AO 00	-- 25	50	- N.C.	Non Connect
Analog Ground (for AO)	AGND	-- 24	49	- AGND	Analog Ground (for AO)
Analog Output 01	AO 01	-- 23	48	- N.C.	Non Connect
Analog Ground (for AO)	AGND	-- 22	47	- AGND	Analog Ground (for AO)
Analog Input 00	AI 00	-- 21	46	- AI 04	Analog Input 04
Non Connect	N.C.	-- 20	45	- N.C.	Non Connect
Analog Input 01	AI 01	-- 19	44	- AI 05	Analog Input 05
Non Connect	N.C.	-- 18	43	- N.C.	Non Connect
Analog Ground (for AI)	AGND	-- 17	42	- AGND	Analog Ground (for AI)
Analog Ground (for AI)	AGND	-- 16	41	- AGND	Analog Ground (for AI)
Analog Input 02	AI 02	-- 15	40	- AI 06	Analog Input 06
Non Connect	N.C.	-- 14	39	- N.C.	Non Connect
Analog Input 03	AI 03	-- 13	38	- AI 07	Analog Input 07
Non Connect	N.C.	-- 12	37	- N.C.	Non Connect
AI External Start Trigger Input	AI START	-- 11	36	- AO START	AO External Start Trigger Input
AI External Stop Trigger Input	AI STOP	-- 10	35	- AO STOP	AO External Stop Trigger Input
AI External Sampling Clock Input	AI EXCLK	-- 9	34	- AO EXCLK	AO External Sampling Clock Input
Digital Ground	DGND	-- 8	33	- DGND	Digital Ground
Digital Input 00	DI 00	-- 7	32	- DO 00	Digital Output 00
Digital Input 01	DI 01	-- 6	31	- DO 01	Digital Output 01
Digital Input 02	DI 02	-- 5	30	- DO 02	Digital Output 02
Digital Input 03	DI 03	-- 4	29	- DO 03	Digital Output 03
Digital Ground	DGND	-- 3	28	- DGND	Digital Ground
Counter Gate Control Input	CNT GATE	-- 2	27	- CNT UPCLK	Counter UP Clock Input
Counter Output	CNT OUT	-- 1	26	- Reseved	Reserved

Analog Input00 to Analog Input07	アナログ入力信号です。番号はチャネル番号に対応します。
Analog Output00 to Analog Output01	アナログ出力信号です。番号はチャネル番号に対応します。
Analog Ground	アナログ入出力信号に共通のアナロググランドです。
AI External Start Trigger Input	アナログ入力用サンプリング開始条件の外部トリガ入力信号です。
AI External Stop Trigger Input	アナログ入力用サンプリング停止条件の外部トリガ入力信号です。
AI External Sampling Clock Input	アナログ入力用外部サンプリングクロック入力信号です
AO External Start Trigger Input	アナログ出力用サンプリング開始条件の外部トリガ入力信号です。
AO External Stop Trigger Input	アナログ出力用サンプリング停止条件の外部トリガ入力信号です。
AO External Sampling Clock Input	アナログ出力用外部サンプリングクロック入力信号です
Digital Input00 to Digital Input03	デジタル入力信号です。
Digital Output00 to Digital Output03	デジタル出力信号です。
Counter Gate Control Input	カウンタのゲート制御入力信号です。
Counter Up Clock Input	カウンタのアップクロック入力信号です。
Counter Output	カウンタの出力信号です。
Digital Ground	デジタル入出力信号、外部トリガ入力信号、外部サンプリングクロック入力信号、カウンタ入出力信号に共通のデジタルグランドです。
Reserved	このピンは予約です。
N.C.	このピンはどこにも接続されていません。

図3.3 ADC-68M/50Mを使用した場合の信号配置

注意

- ・ 各出力は、アナロググランドやデジタルグランドと短絡しないでください。また、出力と出力を接続しないでください。故障の原因になります。
 - ・ アナロググランドとデジタルグランドを短絡してご使用になった場合には、デジタル信号のノイズがアナログ信号に影響を与える可能性がありますので、アナロググランドとデジタルグランドは分離してご使用ください。
 - ・ Reservedには何も接続しないでください。故障の原因になります。
-

アナログ入力信号の接続

アナログ信号の入力形式にはシングルエンド入力と差動入力があり、本カードでは、シングルエンド入力固定です。ここでは、フラットケーブルまたはシールドケーブルを使って接続する場合の例を示します。

シングルエンド入力の接続例

フラットケーブルを使用したときの接続例です。

CN1の各アナログ入力チャンネルに対して、信号源とグラウンドを1対1に接続します。

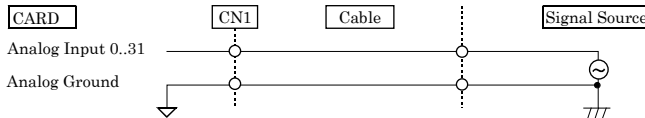


図3.4 シングルエンド入力の接続(フラットケーブル)

シールドケーブルを使用した接続例です。信号源とPCカードの距離が長い場合や、耐ノイズ性を大きくしたいときに使用してください。CN1の各アナログ入力チャンネルに対して、芯線を信号線に、シールド編組をグラウンドに接続します。

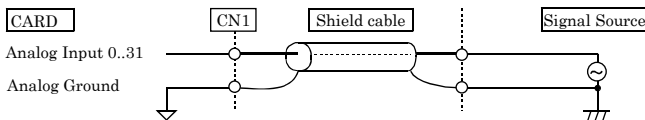


図3.5 シングルエンド入力の接続(シールドケーブル)

⚠ 注意

- ・ 信号源に1MHz以上の周波数成分が含まれる場合、チャンネル間のクロストークが発生することがあります。
- ・ PCカードと信号源がノイズの影響を受ける場合や、PCカードと信号源との距離が長い場合は、接続方法により正確なデータが入力できないことがあります。
- ・ 入力するアナログ信号は、PCカードのアナロググラウンドを基準にして、最大入力電圧を超えてはいけません。超えた場合、破損することがあります。
- ・ 入力端子が未接続のときの変換データは不定です。信号源に接続しないチャンネルの入力端子は、アナロググラウンドと短絡してください。他のチャンネルの入力データに影響を与える場合があります。
- ・ 入力端子に接続している信号がマルチプレクサの切り替え途中で揺れる場合があります。この場合は、信号源とアナログ入力端子間のケーブルを短くするか、信号源とアナログ入力端子間に高速アンプのバッファを挿入することで揺れを少なくすることができます。
- ・ 入力端子に接続されている信号源のインピーダンスが高いことによって入力データが正常に取得できない場合があります。この場合は、出力インピーダンスの低い信号源に変更するか、もしくは信号源とアナログ入力端子間に高速アンプのバッファを挿入することで影響を少なくすることができます。

アナログ出力信号の接続

アナログ出力信号を、フラットケーブルまたはシールドケーブルを使って接続する場合の例を示します。

フラットケーブルを使用したときの接続例です。

CN1のアナログ出力に対して、信号源とグランドを接続します。

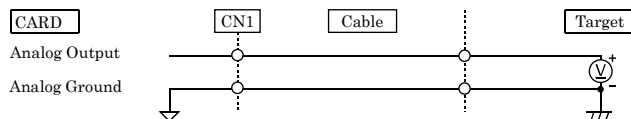


図3.6 アナログ出力の接続(フラットケーブル)

シールドケーブルを使用した接続例です。信号源とPCカードの距離が長い場合や、耐ノイズ性を大きくしたいときに使用してください。CN1のアナログ出力に対して、芯線を信号線に、シールド編組をグランドに接続します。

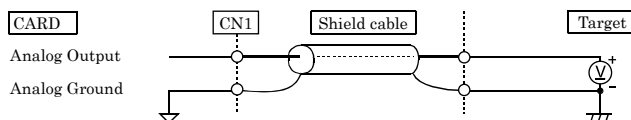


図3.7 アナログ出力の接続(シールドケーブル)

⚠ 注意

- ・ PCカードとターゲットがノイズの影響を受ける場合や、PCカードとターゲットの距離が長い場合は、接続方法によっては、正確なデータが出力できないことがあります。
- ・ アナログ出力の、最大出力電流容量は $\pm 5\text{mA}$ です。接続対象の仕様を確認の上、PCカードと接続してください。
- ・ アナログ出力は、アナロググランドやデジタルグランドと短絡しないでください。故障の原因になります。
- ・ アナログ出力信号を他のアナログ出力信号や外部機器の出力信号と接続しないでください。故障の原因になります。
- ・ パソコン電源投入時の出力電圧は不定です。

デジタル入出力信号、カウンタ信号、制御信号の接続

デジタル入出力信号やカウンタ入出力信号、制御信号(外部トリガ入力信号、サンプリングクロック入力信号など)の入出力を接続する場合の例を示します。

これらのデジタル入出力信号、制御信号はすべてLVTTTLレベルの信号です。

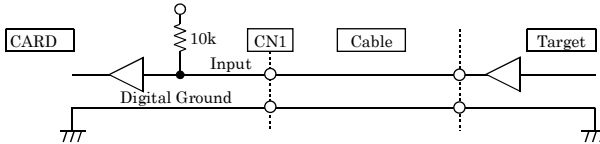


図3.8 デジタル入力の接続

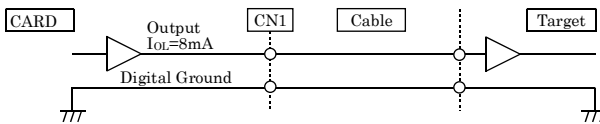


図3.9 デジタル出力の接続

カウンタ入力信号制御について

Counter Gate Control Input(第3章 コネクタの信号配置 を参照)は、カウンタ用外部クロックの入力を有効/無効にできます。この機能を使い、カウンタ用の外部クロックの入力を制御することができます。入力が“High”の場合は、カウンタ用外部クロックが有効、入力が“Low”の場合は無効となります。なお、未接続の場合は、ボード(カード)内部でプルアップされており、“High”になっています。未接続時は、カウンタ用の外部クロックが有効になっています。

⚠ 注意

- ・ 各出力は、アナロググラウンドやデジタルグラウンドと短絡しないでください。故障の原因になります。
- ・ 各出力にプルアップ抵抗を接続する場合、10kΩ程度の抵抗を使用し3.3V電源でプルアップを行ってください。
- ・ 各入力は、5VTTL信号の入力が可能です。

参照

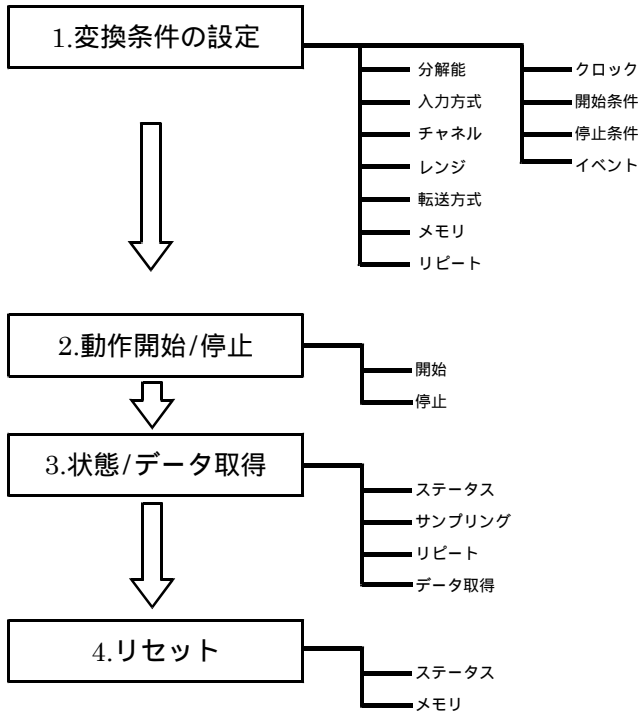
制御信号入力時の動作タイミングについては、「第6章 ハードウェアについて 制御信号の動作タイミング」を参照してください。

第4章 機能の説明

本章では、ハードウェアとドライバの組み合わせで実現可能な機能について説明します。ドライバとは、注釈がない限りAPI-AIO(WDM)のことを指しています。

アナログ入力機能

アナログ信号は分解能に応じたデジタルデータに変換され、メモリ中に格納されます。変換するチャンネルやサンプリング周期、サンプリングの開始と停止の条件など、アナログ入力に関する様々な条件を設定することができます。アナログ入力の処理は図のように分類されます。



1.変換条件の設定

はじめに、どのような条件でアナログ入力を行うのかを設定します。

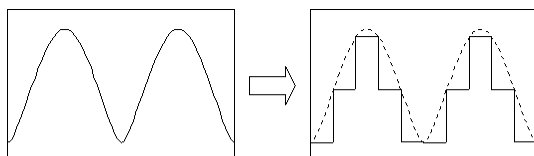
分解能

分解能は、アナログ入力デバイスでアナログ信号を表すために使用するビット数のことを言います。分解能が高いほど、電圧の範囲が細かく区分されていることになり、アナログ値をより正確にデジタル値に変換することができます。

12ビット分解能のデバイスは、使用するレンジ幅を4096分割します。

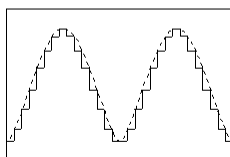
デバイスのレンジが0～10Vであれば、変換された電圧の最小単位は $10 \div 4096 = 2.44\text{mV}$ となります。

16ビット分解能のデバイスの場合、 $10 \div 65536 = 0.153\text{mV}$ となります。



変換前のアナログ電圧

分解能の低いボード



分解能の高いボード

ADA16-8/2(CB)L : 16ビットの分解能を持ちます。

入力方式

入力方式は、入力するアナログ信号の接続方法のことです。

入力方式にはシングルエンド入力と差動入力があります。

信号源とのグラウンド間電位差やノイズ成分が無視できる環境ではシングルエンド入力が、無視できない環境では差動入力が適しています。差動入力を使用する場合、使用可能チャンネル数はシングルエンド入力のときの半分になります。

本ボードでは、入力方式がシングルエンド入力固定のため、ソフトウェアでの設定は不要です。

チャンネル

チャンネルは、アナログ入力の各点を表します。

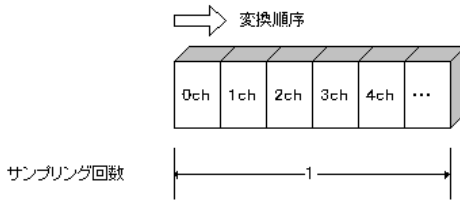
各チャンネルの番号に関しては、「第3章 外部機器との接続ボード上のコネクタとの接続方法-コネクタの信号配置」の記述を参照してください。

ソフトウェアでチャンネルの設定を行うことで、任意の点数のアナログ入力を行うことができます。

チャンネル変換順序

通常1回のサンプリングで複数チャンネルの変換を行うとき、以下のように0チャンネルから順番に変換されます。

本ボードでは、チャンネル変換順序は固定です。ソフトウェアの設定は不要です。



レンジ

レンジは、アナログ入力可能な電圧の範囲です。

本ボードでは、レンジ固定のため、ソフトウェアでの設定は不要です。

ADA16-8/2(CB)L : $\pm 10\text{V}$

転送方式

デバイスまたはドライバ上の変換データ格納用メモリを使用するデバイスバッファモードがあります。

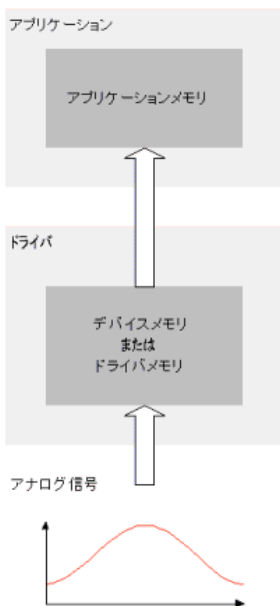
- ・ デバイスバッファモード

変換開始後、変換データはデバイスバッファ(デバイスが持っているメモリまたはドライバ内部のメモリ)に格納されます。

デバイスバッファはFIFOまたはRINGメモリとして使用することができます。

アプリケーションは、必要なときに関数を実行してデバイスバッファから変換データを取得します。

デバイスバッファモードは、サンプリング回数を単位として変換データ数を扱え、変換データ数を直接電圧値で取得する関数も用意されております。



デバイスバッファモード

メモリ形式

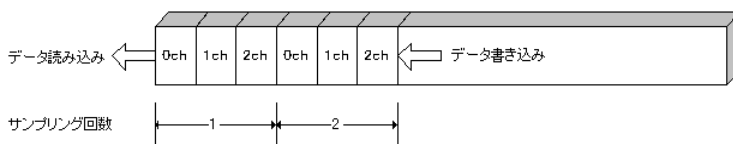
本ボードでは、デバイスバッファの転送モードを使用しています。ソフトウェアの設定は不要です。

デバイスバッファモードの場合

・ FIFO形式

FIFO(First In First Out)形式では、メモリに書き込んだ変換データを古い順に読み出すことができます。読み出す変換データはメモリ内部から順次送り出され、常にメモリに残っている一番古い変換データを読むことができます。メモリ内にある一定数のデータが格納された場合や、メモリにこれ以上データを格納できなくなった状態などを、ステータス監視やアプリケーションへ通知する機能を持っています。

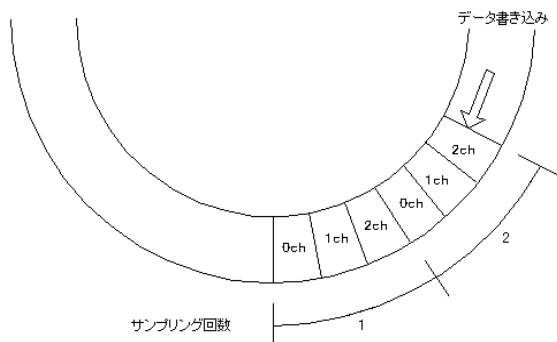
短い時間から無限時間のアナログ入力で、全ての変換データを取得する場合にはFIFOメモリを使用します。



・ RING形式

リング形式では、メモリ内部の格納領域がリング状に構成されています。変換データは順次書き込まれていき、上限を超えて格納するときは前の変換データが格納されている領域に上書きしていきます。メモリ中のある場所にデータが書き込まれたことを、ステータス監視やアプリケーションへ通知する機能を持っています。

通常の状態ではデータ取得を行わず、何かの事象で変換動作が停止した付近のデータを取得するような場合、RINGメモリを使用します。

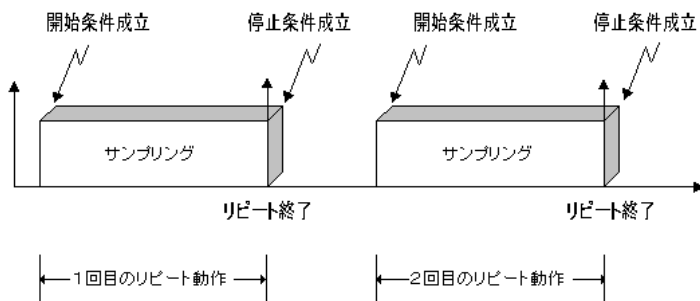


リピート

リピート回数とは、サンプリング開始条件の成立から遅延サンプリングを含むサンプリングの終了までを繰り返す回数を意味しています。

リピート回数の設定はソフトウェアで行い、変換動作は設定されたリピート回数分だけ繰り返し行われます。リピート回数を無制限に繰り返す設定も可能です。無制限に繰り返す場合は、ソフトウェアによる強制停止コマンドで動作を停止させます。

変換データは、順次メモリに格納されていきます。リピートの状態は、ステータス監視やアプリケーション通知することができます。



クロック

サンプリングの周期を決定するサンプリングクロックは、内部サンプリングクロック、外部サンプリングクロックから選択することができます。

- ・ 内部サンプリングクロック
ボードに搭載されているクロックジェネレータのクロック信号を使用します。
- ・ 外部サンプリングクロック
外部から入力したデジタル信号のエッジをサンプリングクロックとして使用します。

開始条件

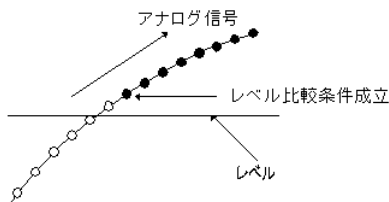
サンプリング開始の制御は、ソフトウェア、変換データ比較、外部トリガから選択することができます。サンプリングの開始と停止の制御は完全に独立しており、それぞれ個別に設定することができます。

- ・ ソフトウェア

動作開始コマンドの出力直後にサンプリングを開始し、変換データをメモリに格納していきます。

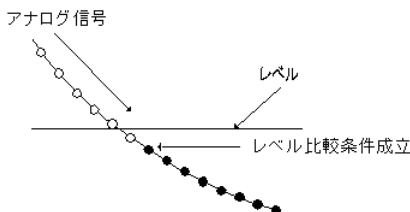
- ・ 変換データレベル比較

動作開始コマンドを出力すると、あらかじめ設定したレベル比較値と指定したチャンネルのアナログ信号の大きさを比較します。条件に一致すると変換データの格納を開始します。レベル比較条件は、レベルと方向の2つの条件で設定されます。



上図は立ち上がり方向での条件成立を表したものです。

指定チャンネルのアナログ信号がレベル比較条件を立ち上がり方向に通過したときに開始条件が成立します。変換データは、黒点部分からメモリに格納されていきます。



上図は立ち下がり方向での条件成立を表したものです。

指定チャンネルのアナログ信号がレベル比較条件を立ち下がり方向に通過したときに開始条件が成立します。変換データは、黒点部分からメモリに格納されていきます。

レベル比較の方向を両方に設定した場合、立ち上がり、立ち下がり共にレベル比較条件を通過すると開始条件が成立します。

- ・ 外部トリガ

動作開始コマンド出力直後に外部制御信号待ちの状態になります。

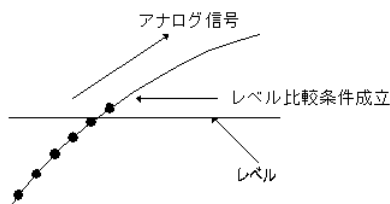
あらかじめ設定したエッジの方向(立ち上がり、立ち下がり)の外部制御信号が入力されるとサンプリングを開始し、変換データをメモリに格納していきます。

停止条件

サンプリング停止の制御は、サンプリング回数終了、変換データ比較、外部トリガ、ソフトウェアによる強制停止の選択が可能です。

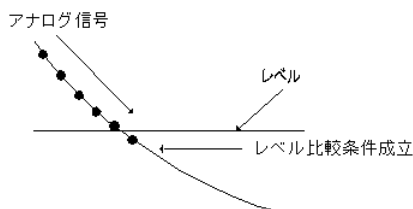
サンプリングは、停止条件の設定にかかわらず、エラー発生時に停止します。

- ・ サンプリング回数終了
指定したサンプリング回数分の変換データをメモリに格納した後、サンプリングを停止します。
- ・ 変換データレベル比較
サンプリング開始後、あらかじめ設定したレベル比較値と指定したチャンネルのアナログ信号の大きさを比較します。条件に一致するとサンプリングを停止します。
レベル比較条件は、レベルと方向の2つの条件で設定されます。



上図は立ち上がり方向での条件成立を表したものです。

指定チャンネルのアナログ信号がレベル比較条件を立ち上がり方向に通過したときに停止条件が成立します。変換データは、黒点部分までがメモリに格納されます。



上図は立ち下がり方向での条件成立を表したものです。

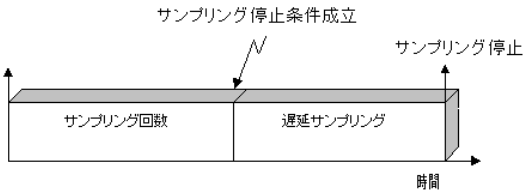
指定チャンネルのアナログ信号がレベル比較条件を立ち下がり方向に通過したときに停止条件が成立します。変換データは、黒点部分までがメモリに格納されます。

レベル比較の方向を両方に設定した場合、立ち上がり、立ち下がり共にレベルを通過すると停止条件が成立します。

- ・ 外部トリガ
設定したサンプリング回数のサンプリングが終了した時点から、外部制御信号待ちの状態になります。あらかじめ設定したエッジの方向(立ち上がり、立ち下がり)の外部制御信号が入力されるとサンプリングを停止します。

遅延

遅延サンプリングは、サンプリング停止条件が成立した後に行うサンプリングのことです。ソフトウェアコマンドによる強制停止以外のサンプリング停止条件が成立したときから、遅延サンプリング回数分のサンプリングを行い、変換データをメモリに格納します。遅延サンプリング回数を0回に設定した場合は、サンプリング停止条件が成立した時点でサンプリングを終了します。



イベント

イベントは、デバイス上で発生した何らかの状態をアプリケーションに通知する機能です。仕様用途に応じて、以下のイベントを組み合わせで使用できます。

- ・ AD変換開始条件成立イベント
AD変換の開始条件が成立したときに発生するイベントです。このイベントは、変換開始条件がソフトウェアの場合には無効になります。
- ・ リピート終了イベント
リピート動作が終了するたびにイベントが発生します。
- ・ デバイス動作終了イベント
リピートを含む、全ての動作が終了したときに発生するイベントです。
- ・ 指定サンプリング回数格納イベント
ソフトウェアで設定した回数分のサンプリングが行われるとイベントが発生します。このイベントは、デバイスバッファモードで使用可能です。
- ・ オーバーフローイベント
メモリがフルの状態に変換データを格納しようとしたときに発生するイベントです。
- ・ サンプリングクロックエラーイベント
サンプリングクロックの周期が短すぎてエラーとなり、変換が停止するときに発生するイベントです。
- ・ AD変換エラーイベント
AD変換エラーが発生して変換が停止するときに発生するイベントです。

2.動作開始 / 停止

サンプリングの開始は、ソフトウェアコマンドで行います。サンプリング開始後は、任意のタイミングでソフトウェアコマンドによりサンプリングを停止することができます。

3.状態監視 / データ取得

デバイスの動作状態の監視や、メモリに格納された変換データの取得をソフトウェアコマンドで行います。状態監視とデータ取得は、サンプリング中にも行うことができます。

ステータス

ステータス取得を行うことで、デバイスの状態を知ることができます。

デバイスのステータスには、以下の種類があります。

- ・ デバイス動作中
サンプリング開始コマンド実行後、変換終了、エラーによる動作停止、コマンドによるサンプリング停止までの間、デバイス動作中ステータスがONになります。
- ・ 開始トリガ待ち
変換開始条件の設定が、外部トリガ、レベル比較のいずれかの場合、サンプリング開始後に開始トリガが入力されるまでの間はこのステータスがONになります。開始トリガが入力され変換が開始するとこのステータスはOFFになります。
リピートによる繰り返し動作を設定している場合も、変換開始条件待ちの状態になるたびにこのステータスがONになります。
- ・ 指定サンプリングデータ格納
メモリに格納された変換データがあらかじめ設定されたサンプリング回数分に達したときにONになります。
メモリ形式がFIFOの場合、データ取得を行うことでメモリ中の変換データが設定されたサンプリング回数を下回るとステータスはOFFになります。
メモリ形式がRINGの場合、ステータスが一度ONになると、状態をリセットするまでOFFになりません。
- ・ オーバーフロー
メモリのすべてに変換データが格納され、これ以上データが格納できない状態でさらに変換データを格納しようするとオーバーフローエラーが発生します。
メモリ形式がFIFOの場合、変換が停止します。
メモリ形式がRINGの場合、変換は継続し過去のデータは上書きされます。
- ・ サンプリングクロックエラー
サンプリングクロックの周期が短すぎる場合このエラーが発生します。
- ・ AD変換エラー
デバイスの変換中ステータスがOFFにならない状態(変換終了しない状態)が長く続いた場合、ドライバは動作異常と判断してこのステータスをONにします。このエラーによりサンプリングは停止します。

サンプリング

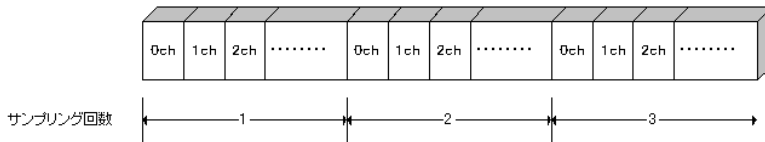
ソフトウェアコマンドでメモリ中に格納されている変換データのサンプリング数を取得することができます。

リピート

ソフトウェアコマンドで現在のリピート回数を取得することができます。

データ取得

ソフトウェアコマンドで、メモリ中に格納されている変換データを取得します。
メモリに格納される変換データのサンプリング回数と変換チャンネルの関係は、以下の図のように表わされます。



変換データの取得は、使用するメモリ形式によって方法が異なります。

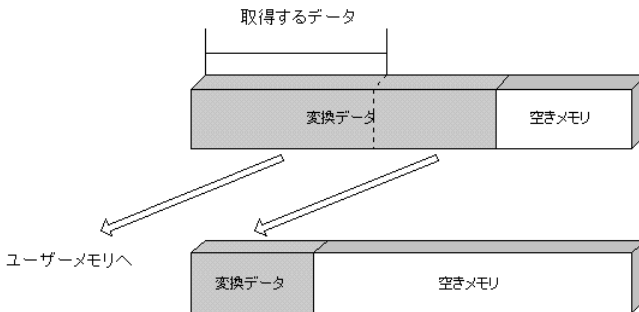
・FIFOでの取得方法

FIFOメモリでは、メモリからのデータ読み込みは常に一番古いデータから行われます。

下図はFIFOでデータ取得を行うときのイメージです。

データを取り込むとメモリの空き容量がその分だけ増え、次にデータ取得を行うときは残りの一番古いデータから取り込みます。

このとき、一度取り込んだデータはメモリから破棄されます。



・RINGでの取得方法

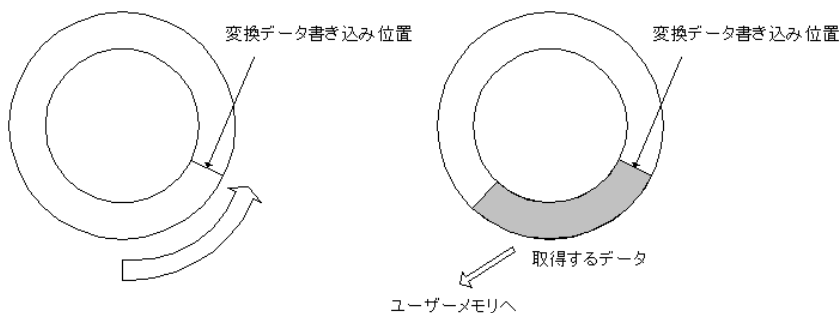
RINGメモリでは、メモリからのデータ読み込みは常に現在の変換データ書き込み位置を基準に行われます。

下図はRINGでデータ取得を行うときのイメージです。

取得するサンプリング回数は、常に最新のデータまでのサンプリング回数となります。(図のグレー部分)

取得サンプリング数が大きいほど、より古いデータから取得を行うことになります。

RINGの場合、データを取得してもメモリ中にデータは残っているため、一度取り込んだデータを何度でも取り込み可能です。



変換データ

変換データと電圧の関係は次式で表されます。

電圧値 = 変換データ × (レンジの最大値 - レンジの最小値) ÷ 分解能 + レンジの最小値

分解能の値は、16ビットデバイスの場合65536です。

次の表は ±10Vレンジにおける、変換データと電圧の関係を示したものです。

電圧	変換データ(16ビット)
+9.99970V	65535
:	:
0.00030V	32769
0V	32768
-0.00030V	32767
:	:
-10.000V	0

例: 16ビットで ±10Vレンジのとき、変換データ49152が入力された場合

$$\begin{aligned}\text{電圧} &= 49152 \times (10 - (-10)) \div 65536 + (-10) \\ &= 5.0\end{aligned}$$

4.リセット

以下のリセットコマンドを実行することにより、各種状態をリセットすることができます。

ステータス

サンプリングクロックエラーステータスとAD変換エラーステータスをリセットします。

メモリ

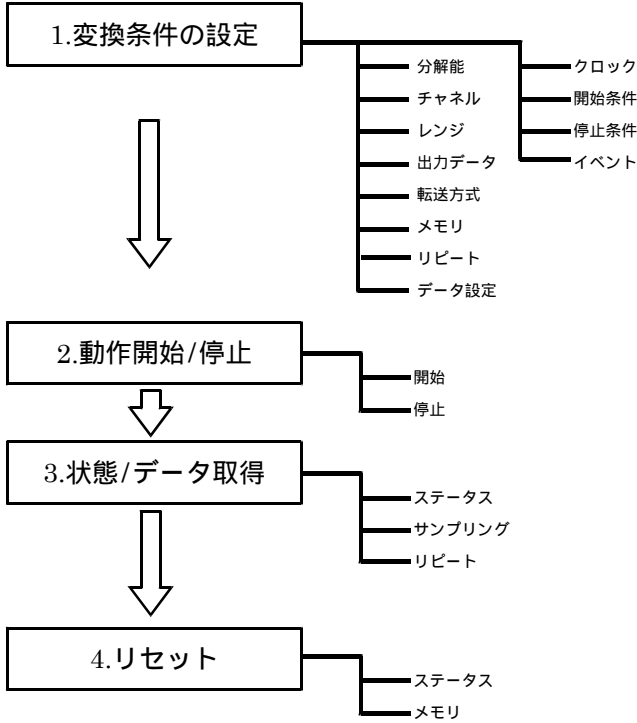
転送方式をデバイスバッファモードに設定した場合に使用できます。

以下のメモリに係する状態をリセットします。

- ・メモリ内の変換データがリセットされます。
- ・リピート回数が0にリセットされます。
- ・停止トリガ入力時のサンプリング回数が0にリセットされます。
- ・バッファオーバーフローステータスがリセットされます。
- ・指定個数データ格納ステータスがリセットされます。

アナログ出力機能

デジタルデータを分解能に応じたアナログ信号に変換します。
変換するチャンネルやサンプリング周期、サンプリングの開始と停止の条件など、アナログ出力に関する様々な条件を設定することができます。
アナログ出力の処理は図のように分類されます。



1.変換条件の設定

はじめに、どのような条件でアナログ出力を行うのかを設定します。

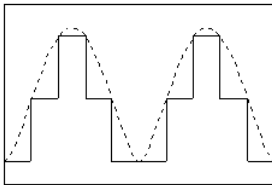
分解能

分解能は、アナログ出力デバイスでアナログ信号を表すために使用するビット数のことを言います。分解能が高いほど、電圧の範囲が細かく区分されていることになり、より正確にアナログ値に変換することができます。

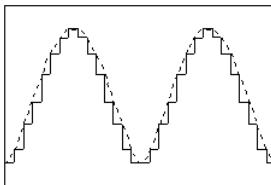
12ビット分解能のデバイスは、使用するレンジ幅を4096分割します。

デバイスのレンジが0～10Vであれば、変換された電圧の最小単位は $10 \div 4096 = 2.44\text{mV}$ となります。

16ビット分解能のデバイスの場合、 $10 \div 65536 = 0.153\text{mV}$ となります。



分解能の低いボード



分解能の高いボード

ADA16-8/2(CB)L : 16ビットの分解能を持ちます。

チャンネル

チャンネルは、アナログ出力の各点を表します。

各チャンネルの番号に関しては、「第3章 外部機器との接続-ボード上のコネクタとの接続方法-コネクタの信号配置」の記述を参照してください。

ソフトウェアでチャンネルの設定を行うことで、任意の点数のアナログ出力を行うことができます。

レンジ

レンジは、アナログ出力が可能な電圧の範囲です。

本ボードでは、レンジ固定のため、ソフトウェアでの設定は不要です。

ADA16-8/2(CB)L : $\pm 10\text{V}$

出力データ

出力データ = ((電圧値 - レンジの最小値) × 分解能) ÷ (レンジの最大値 - レンジの最小値)

分解能の値は、16ビットデバイスの場合65536です。

次の表は±10Vレンジにおける、出力データと電圧の関係を示したものです。

電圧	出力データ(16ビット)
+9.99970V	65535
⋮	⋮
0.00030V	32769
0V	32768
-0.00030V	32767
⋮	⋮
-10.000V	0

例: 16ビットで±10Vレンジのとき、3Vを出力する場合

出力データ = (3 - (-10)) × 65536 ÷ (10 - (-10))
= 42598.4 *

- * このとき出力データとして設定できる値は、整数です。このため、“42598”か“42599”を選択し、出力データとします。
- その結果、出力データに対応するアナログ信号は、
- ・ “42598” を出力した場合 2.9998V
 - ・ “42599” を出力した場合 3.0001V
- となり、誤差が発生します。
- この誤差は、アナログの期待値から出力データを求める際に、必然的に発生する誤差です。

転送方式

デバイスまたはドライバ上の変換データ格納用メモリを使用するデバイスバッファモードがあります。

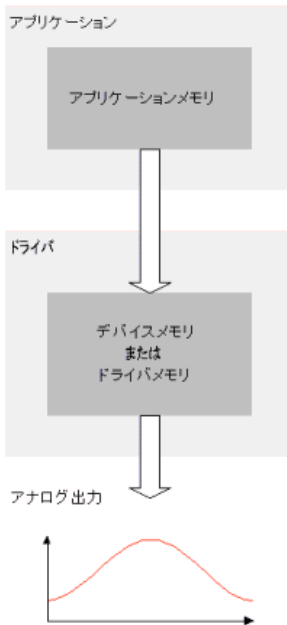
・デバイスバッファモード

アプリケーションの出力データをいったんデバイスバッファ(デバイスが持っているメモリまたはドライバ内部のメモリ)に格納していきます。

変換開始後、デバイスバッファの出力データがデバイスに出力されます。

デバイスバッファはFIFOまたはRINGメモリとして使用することができます。

デバイスバッファモードは、サンプリング回数を単位として変換データ数を扱え、変換データ数を直接電圧値で設定する関数も用意されています。



デバイスバッファモード

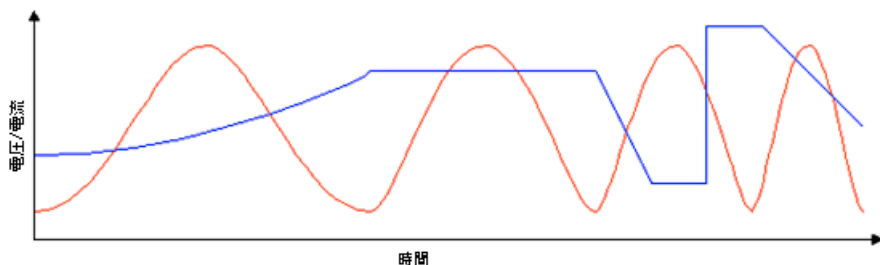
メモリ形式

本ボードでは、デバイスバッファの転送モードを使用しています。ソフトウェアの設定は不要です。

デバイスバッファモードの場合

- FIFO(First In First Out)形式

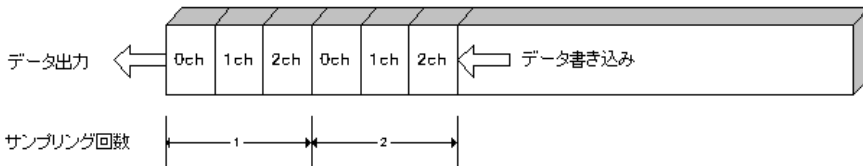
下図のように任意のアナログ出力を連続的に行う場合、FIFO形式を選択します。



FIFO形式では、メモリへの変換データ書き込みは常に最新のデータの後に続いて行われ、DA変換されるデータは常にメモリ上の一番古いものが使用されます。

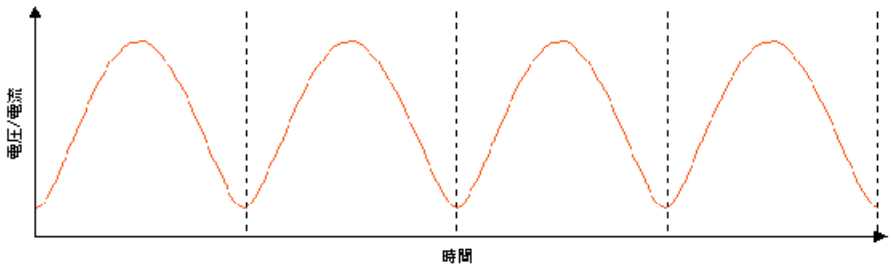
メモリへの書き込みは、アナログ出力動作中でも可能です。

メモリの容量以上のデータが追加されるとエラーとなります。ただし、エラーが発生してもアナログ出力動作中であれば、出力を継続します。



- ・ RING形式

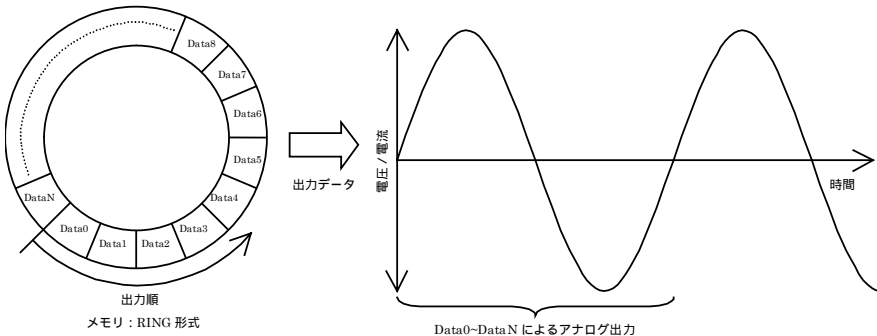
下图の様にRING形式は、きまったパターンのデータを繰り返し出力する場合に使用します。



RING形式では、あらかじめ出力する波形の1周期分のデータを書き込んでおきます。

アナログ出力動作中のメモリへの書き込みは、できません。

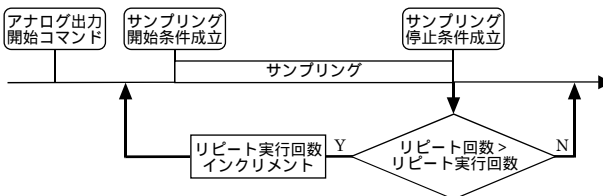
DA変換されるデータは、RING形式に書き込まれたデータの順に連続して行われます。



図では1チャンネルのアナログ出力を行っていますが、複数チャンネルの出力も可能です。

リピート

リピート回数を設定することにより、サンプリング動作を設定した回数分繰り返します。



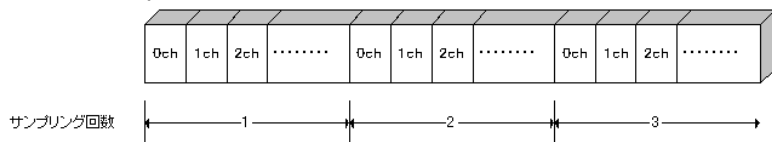
リピート回数を設定する場合、メモリの設定をRING形式に設定している必要があります。

(FIFOメモリでは使用できません)

リピート回数の設定はソフトウェアで行い、リピート回数分だけサンプリングが繰り返し行われます。リピート回数を無制限に繰り返す設定も可能です。無制限に繰り返す場合は、ソフトウェアによるアナログ出力停止コマンドによりアナログ出力動作を停止します。

データ設定

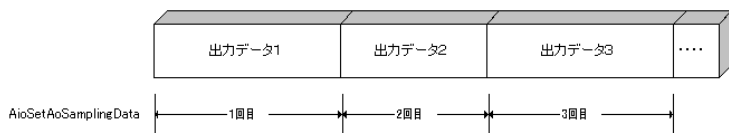
ソフトウェアコマンドで、メモリ中に設定データを格納します。
メモリに格納される変換データのサンプリング回数と変換チャンネルの関係は、以下の図のように表わされます。



変換データの設定は、使用するメモリ形式によって方法が異なります。

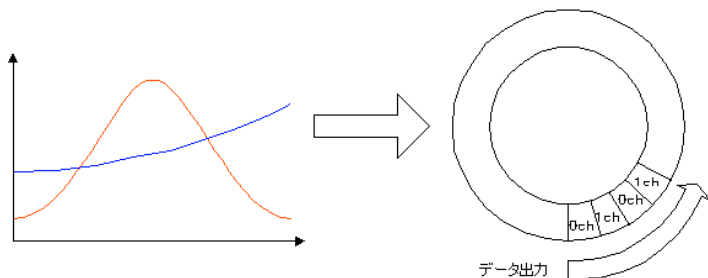
- FIFOでの設定方法

FIFOメモリでは、メモリへのデータ設定は常に一番新しいデータから行われます。
変換中にもデータを追加できます。



- RINGでの設定方法

RINGメモリでは、設定されたデータサイズ分のRINGメモリが作成されます。
DA変換中にデータを変更することはできません。



クロック

サンプリングの周期を決定するサンプリングクロックは、内部サンプリングクロックと外部サンプリングクロックの選択が可能です。サンプリングクロックの選択はソフトウェアで行います。

- ・ 内部サンプリングクロック
ボードに搭載されているクロックジェネレータのクロック信号を使用します。
- ・ 外部サンプリングクロック
外部から入力したデジタル信号のエッジをサンプリングクロックとして使用します。

開始条件

サンプリング開始の制御は、ソフトウェア、外部トリガから選択できます。サンプリングの開始と停止の制御は完全に独立しており、それぞれ個別に設定することができます。

- ・ ソフトウェア
動作開始コマンドの出力直後にサンプリングを開始し、設定データをメモリから出力します。
- ・ 外部トリガ
動作開始コマンド出力直後に外部制御信号待ちの状態になります。
あらかじめ設定したエッジの方向(立ち上がり、立ち下がり)の外部制御信号が入力されるとサンプリングを開始し、設定データをメモリから出力します。

停止条件

サンプリング停止の制御は、サンプリング回数終了、外部トリガ、ソフトウェアによる強制停止の選択が可能です。

サンプリングは、停止条件の設定にかかわらず、エラー発生時に停止します。

- ・ サンプリング回数終了
指定したサンプリング回数分の設定データをメモリから出力した後、サンプリングを停止します。
- ・ 外部トリガ
設定したサンプリング回数のサンプリングが終了した時点から、外部制御信号待ちの状態になります。あらかじめ設定したエッジの方向(立ち上がり、立ち下がり)の外部制御信号が入力されるとサンプリングを停止します。
- ・ ソフトウェア
無限にサンプリングを継続するモードです。サンプリング動作は、ソフトウェアコマンドの実行またはエラー発生により停止します。

イベント

イベントは、デバイス上で発生した何らかの状態をアプリケーションに通知する機能です。使用用途に応じて、以下のイベントを組み合わせ使用できます。

- ・ DA変換開始条件成立イベント
DA変換の開始条件が成立したときに発生するイベントです。このイベントは、変換開始条件がソフトウェアの場合には無効になります。
- ・ リピート終了イベント
リピート動作が終了するたびにイベントを発生します。
- ・ デバイス動作終了イベント
リピートを含む、全ての動作が終了したときに発生するイベントです。
- ・ 指定サンプリング回数出力イベント
ソフトウェアで設定した回数分のサンプリングが行われるとイベントを発生します。このイベントは、転送形式がデバイスバッファ使用時に有効です。
- ・ 指定転送数毎イベント
ソフトウェアで設定した回数分のサンプリングが行われるとイベントを発生します。FIFOの場合、設定した値まで減少したときにイベントを発生します。条件を満たすごとに何度もイベントが発生します。
RINGメモリの場合、メモリから出力されるのサンプリング数が設定した値に一致したときにイベントを発生します。リピート回数分のイベントが発生します。
このイベントは、転送形式がユーザーバッファ使用時に有効です。
- ・ サンプリングクロックエラーイベント
サンプリングクロックの周期が短すぎてエラーとなり、変換が停止するときに発生するイベントです。
- ・ DA変換エラーイベント
DA変換エラーが発生して変換が停止するときに発生するイベントです。

2.動作開始 / 停止

アナログ出力動作は、ソフトウェアコマンドで行います。(アナログ出力開始コマンド)
アナログ出力動作中は、任意のタイミングでソフトウェアコマンドによりアナログ出力動作を停止することができます。(アナログ出力停止コマンド)

3.状態監視 / データ取得

アナログ出力動作の状態や、メモリに格納された出力データの状態をソフトウェアコマンドで監視ができます。

ステータス

ステータス取得を行うことで、デバイスの状態を知ることができます。
デバイスのステータスには、以下の種類があります。

- ・ デバイス動作中
サンプリング開始コマンド実行後、変換終了、エラーによる動作停止、コマンドによるサンプリング停止までの間、デバイス動作中ステータスがONになります。
- ・ 開始トリガ待ち
変換開始条件の設定が、外部トリガの場合、サンプリング開始後に開始トリガが入力されるまでの間はこのステータスがONになります。開始トリガが入力され変換が開始するとこのステータスはOFFになります。
リピートによる繰り返し動作を設定している場合も、変換開始条件待ちの状態になるたびにこのステータスがONになります。
- ・ 指定個数データ出力
メモリに設定された出力データがあらかじめ設定されたサンプリング回数分に達したときにONになります。
- ・ サンプリングクロックエラー
サンプリングクロックの周期が短すぎる場合このエラーが発生します。
- ・ DA変換エラー
デバイスの変換中ステータスがOFFにならない状態(変換終了しない状態)が長く続いた場合、ドライバは動作異常と判断してこのステータスをONにします。このエラーによりサンプリングは停止します。

サンプリング

ソフトウェアコマンドでメモリから出力されたサンプリング数を取得することができます。
このコマンドは、デバイスバッファモードで使用可能です。

4.リセット

以下のリセットコマンドを実行することにより、各種状態をリセットすることができます。

ステータス

サンプリングクロックエラーステータスとDA変換エラーステータスをリセットします。

メモリ

転送方式をデバイスバッファモードに設定した場合に使用できます。

以下のメモリに関係する状態をリセットします。

- ・メモリ内の変換データがリセットされます。
- ・リピート回数が0にリセットされます。
- ・停止トリガ入力時のサンプリング回数が0にリセットされます。
- ・指定個数データ出力ステータスがリセットされます。

カウンタ機能

1.動作条件の設定

ここでは、どのような条件でカウンタを動作させるのかを設定します。

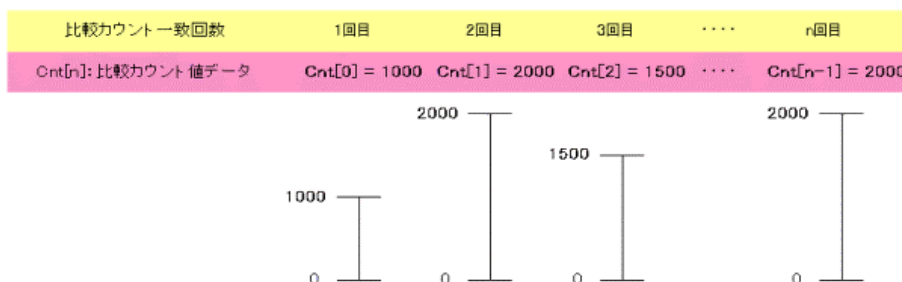
動作条件

カウンタの基本動作は、外部から入力された信号をカウントします。

カウンタは、比較カウント一致という機能を持っており、あらかじめ設定されたカウント値と現在のカウント値が一致したタイミングで別の動作が行えます。

比較カウント値

比較カウント値のロードは、比較カウント一致が発生するたびに次回の比較カウント値が自動的にロードされる機能です。



上図は、比較カウント値のロードを使用するときの動作例です。

カウンタ動作開始後、1回目の比較カウント一致はカウント値1000で発生します。

カウンタ値が1000になると、2回目の比較カウント一致が発生するカウンタ値2000が設定されます。

同様に、比較カウント一致が発生するたびに配列の値が順番に設定されます。

配列の最後の値がロードされた後、再び繰り返して配列の先頭データをロードできます。

また、繰り返さずに以降ロードを行わない(比較カウント値は2000のまま)方法も可能です。

入力信号

カウンタ入力信号として、外部クロックを使用します。

デジタルフィルタ

外部からの入力ビットにデジタルフィルタを設定することができます。

フィルタ時間は、未使用、1 μ sからソフトウェアで選択可能です。

イベント

イベントは、デバイス上で発生した何らかの状態をアプリケーションに通知する機能です。仕様用途に応じて、以下のイベントを組み合わせで使用できます。

- ・ 比較カウンタ一致イベント
カウンタの比較カウンタ一致が成立したときに発生するイベントです。
- ・ カウンタオーバーランイベント
カウンタのオーバーラン発生時にイベントを発生します。
- ・ カウンタ動作エラー
カウンタ動作エラーによりカウンタ動作が停止するときに発生するイベントです。

2.動作開始 / 停止

動作開始 / 停止の設定は、ソフトウェアコマンドで行います。

動作開始後は、任意のタイミングでソフトウェアコマンドによりカウンタを停止できます。

3.状態監視 / データ取得

デバイスの動作状態の監視や、カウンタデータの取得をソフトウェアコマンドで行います。状態監視とデータ取得は、カウンタ動作中にも行えます。

ステータス

ステータス取得を行うことで、デバイスの状態を知ることができます。

デバイスのステータスには、以下の種類があります。

- ・ カウンタ動作中
動作開始コマンド実行後、エラーによる動作停止、コマンドによる停止までの間、デバイス動作中ステータスがONになります。
- ・ 比較カウンタ一致
カウンタの動作開始後に比較カウンタ一致が発生すると、比較カウンタ一致ステータスがON状態になります。このステータスは、ステータスリセットコマンドを実行することによりOFFします。
- ・ オーバーラン
比較カウンタ一致ステータスがONの状態再度比較カウンタ一致が発生すると、オーバーランステータスがON状態になります。このステータスは、ステータスリセットコマンドを実行することによりOFFします。
オーバーランステータスがONになっても、カウンタの動作は停止しません。
- ・ カウンタ動作エラー
短い時間内に比較カウンタ一致が連続で発生する場合、ドライバでの処理が間に合わないことがあります。
この場合、カウンタ動作エラーステータスがON状態になり、カウンタ動作は停止します。

データ取得

ソフトウェアコマンドで、現在のカウンタ値を取得できます。

4.リセット

以下のリセットコマンドを実行することにより、各種状態をリセットできます。

カウンタリセット

カウンタ機能をリセットします。これにより、カウンタは電源投入時の状態に戻ります。

ステータス

比較カウント一致ステータスとオーバーランステータスをリセットします。

デジタル入力機能

入力ビット

デジタル入力の各点を入力ビットと呼びます。

入力点数が4のデバイスの場合、各ビットはビット0 - ビット3として定められています。

ビット3	ビット2	ビット1	ビット0
------	------	------	------

ビット単位での入力

入力ビットを指定して入力することにより、そのビットが1(ON)であるか、0(OFF)であるかを取得することができます。

バイト単位での入力

各入力ビットをバイト単位でまとめて入力することができます。

入力点数が4のデバイスの場合、各入力ビットは以下のように並び、入力されるバイトデータはビットの状態に応じて0 - 15までの値を取得します。

例) ビット3: OFF、ビット2: ON、ビット1: OFF、ビット0: ONの状態を入力する場合

バイトデータ= 05(AH)

ビット3 ビット2 ビット1 ビット0

0(OFF)	1(ON)	0(OFF)	1(ON)
--------	-------	--------	-------

デジタルフィルタ

入力ビットにデジタルフィルタを設定することができます。

フィルタ時間は、未使用、1 μ sからソフトウェアで選択可能です。

デジタル出力機能

出力ビット

デジタル出力の各点を出力ビットと呼びます。

出力点数が4のデバイスの場合、各ビットはビット0 - ビット3として定められています。

ビット3	ビット2	ビット1	ビット0
------	------	------	------

ビット単位での出力

出力ビットを指定して1または0を指定することにより、そのビットの状態をONまたはOFFに変化させることができます。

バイト単位での出力

各出力ビットにバイト単位でまとめて出力することができます。出力点数が4のデバイスの場合、各出力ビットは以下のように並び、出力可能なバイトデータは0 - 15までの値となります。

例) ビット3: ON、ビット2: OFF、ビット1: ON、ビット0: OFFを出力する場合

バイトデータ= 10(AH)

ビット3	ビット2	ビット1	ビット0
1(ON)	0(OFF)	1(ON)	0(OFF)

第5章 ソフトウェアについて

CD-ROMの内容

¥

— Autorun.exe	インストールメイン画面
Readmej.html	各API-TOOLのバージョン情報(日本語)
Readmeu.html	各API-TOOLのバージョン情報(英語)
.	
— APIPAC各インストーラ本体	
— AIO	
— DISK1	
— DISK2	
—	
— DISKN	
— AioWdm	
— CNT	
— DIO	
—	
.	
— HELP	HELPファイル
— Aio	
— Cnt	
—	
.	
— INF	各OS用INFファイル
— WDM	
— Win2000	
— Win95	
.	
— linux	Linux版ドライバファイル
— cnt	
— dio	
—	
.	
— Readme	各ドライバのReadmeファイル
.	
— Release	各API-TOOLドライバファイル
— API_NT	(お客様で独自にインストールを作成される方用)
— API_W95	
.	
— UsersGuide	ハードウェアの説明書(PDF形式)

Windows版ソフトウェアについて

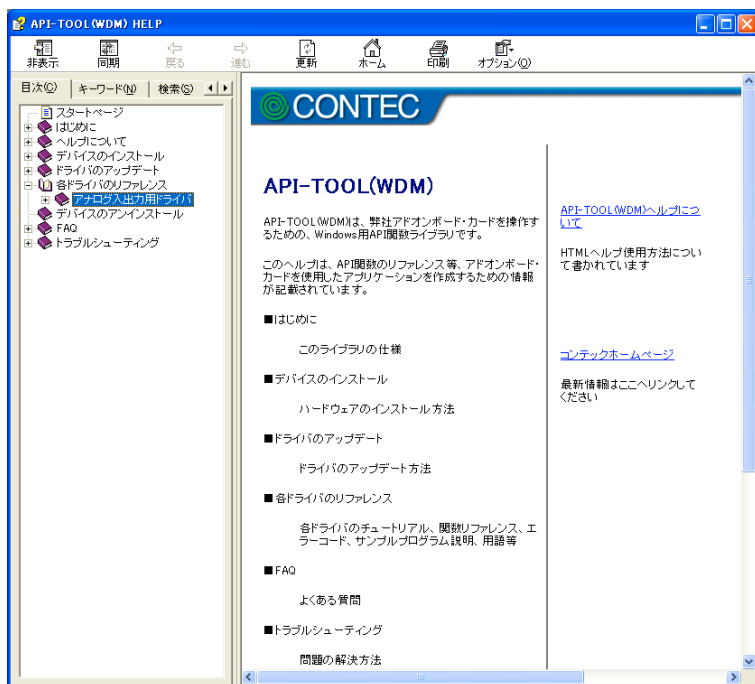
添付CD-ROM「ドライバライブラリ API-PAC(W32)」では、下記のような機能を実行する関数が用意されています。

- ・ 任意チャネルのアナログ入力またはアナログ出力を行うことができます。
- ・ 内部サンプリングクロックか外部サンプリングクロックを利用し、任意の時間間隔でアナログ入力ができます。
- ・ アナログ入力サンプリングの終了や、バッファメモリの使用状況、さらにエラーの発生などの割り込み要因を同時に監視することができます。
- ・ デモドライバを使用して、PCカードがない状態でもドライバの動作を確認できます。

詳細については、ヘルプファイルを参照ください。ヘルプファイルには、「関数のリファレンス」、「サンプルプログラム」、「チュートリアル」、「FAQ」、「トラブルシューティング」などの情報を提供しています。プログラム開発やトラブルシューティングをご利用ください。

ヘルプファイルの参照方法

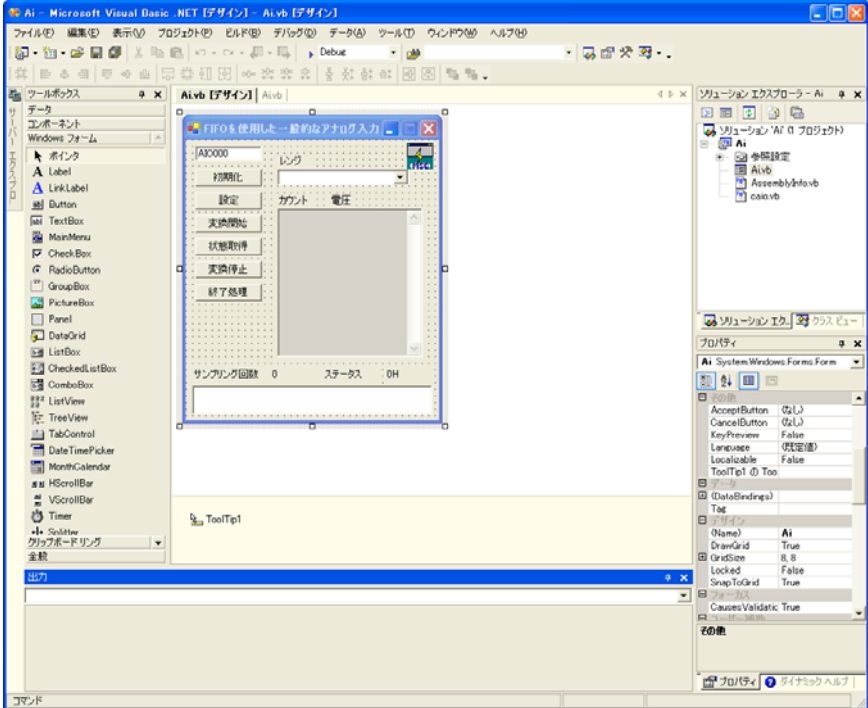
- (1) Windowsタスクバーの「スタート」ボタンをクリックします。
- (2) 「スタート」メニューから「プログラム」 - 「CONTEC API-PAC(W32)」 - 「AIOWDM」内の「API-AIO(WDM) HELP」をクリックすると表示されます。



サンプルプログラムの利用方法

サンプルプログラムは基本的な用途ごとに作成されており、プログラム開発の参考・動作確認にご利用いただけます。

各サンプルプログラムには、プロパティページで設定したデバイス名を入力して使用します。サンプルプログラムは、¥Program Files¥CONTEC¥API-PAC(W32)¥AIOWDM¥Samplesにあります。



サンプルプログラムの実行

- (1) Windowsタスクバーの「スタート」ボタンをクリックします。
- (2) 「スタート」メニューから「プログラム」 - 「CONTEC API-PAC(W32)」 - 「AIOWDM」内の「SAMPLE...」を選択します。
- (3) サンプルプログラムが起動します。

サンプルの一例

アナログ入力

簡易サンプル

- SingleAi 指定チャンネル1回アナログ入力
- MultiAi 複数チャンネル1回アナログ入力

デバイスバッファ

- Ai FIFOを使用した一般的なアナログ入力
- AiPoll ポーリングを使用したアナログ入力
- AiEx FIFOを使用した複数チャンネル対応アナログ入力
- AiLong FIFOを使用した長時間アナログ入力
- AiExt 外部クロックを使用したアナログ入力
- AiTrg 外部トリガ開始・停止を使用したアナログ入力
- AiLevel1 レベルトリガ開始アナログ入力
- AiLevel2 レベルトリガ停止アナログ入力
- Ai2 複数デバイスを使用した一般的なアナログ入力
- AiCall コールバックルーチンを使用したアナログ入力

アナログ出力

簡易サンプル

- SingleAo 指定チャンネル1回アナログ出力
- MultiAo 複数チャンネル1回アナログ出力

デバイスバッファ

- Ao FIFOを使用した一般的なアナログ出力
- AoPoll ポーリングを使用したアナログ出力
- AoEx FIFOを使用した複数チャンネル対応アナログ出力
- AoLong FIFOを使用した長時間アナログ出力
- AoExt 外部クロックを使用したアナログ出力
- AoRing RINGを使用した連続アナログ出力
- AoTrg 外部トリガ開始・停止を使用したアナログ出力
- Ao2 複数デバイスを使用した一般的なアナログ出力
- AoCall コールバックルーチンを使用したアナログ出力

デジタル入出力

- DioBit ビット単位のデジタル入出力
- DioByte ポート単位のデジタル入出力

カウンタ、タイマ

- Counter 一般的なカウンタ
- Interval インターバルタイマ
- Watch ストップウォッチタイマ

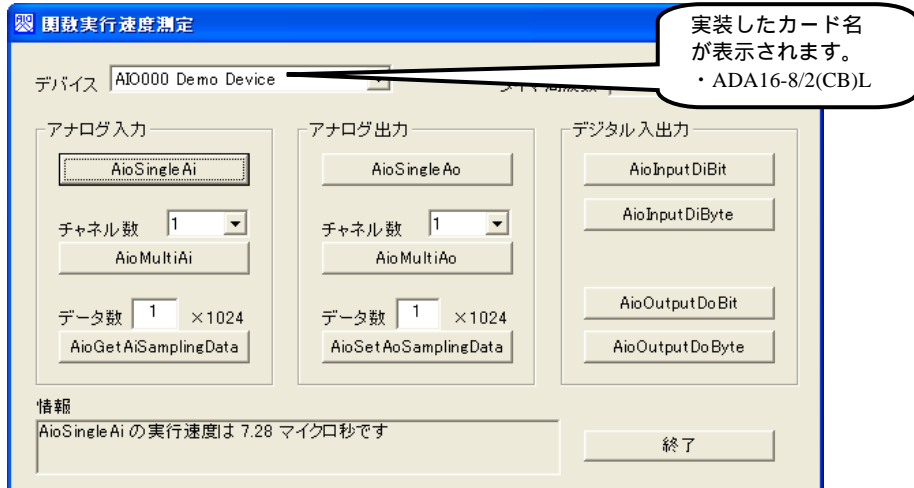
その他

- Convert データ変換

ユーティリティプログラムの利用方法

関数実行速度測定プログラム

関数実行速度測定プログラムでは、いくつかの主要な関数の実行時間を測定することができます。関数実行速度測定プログラムを使用するには、診断プログラムから[実行時間計測]ボタンをクリックします。



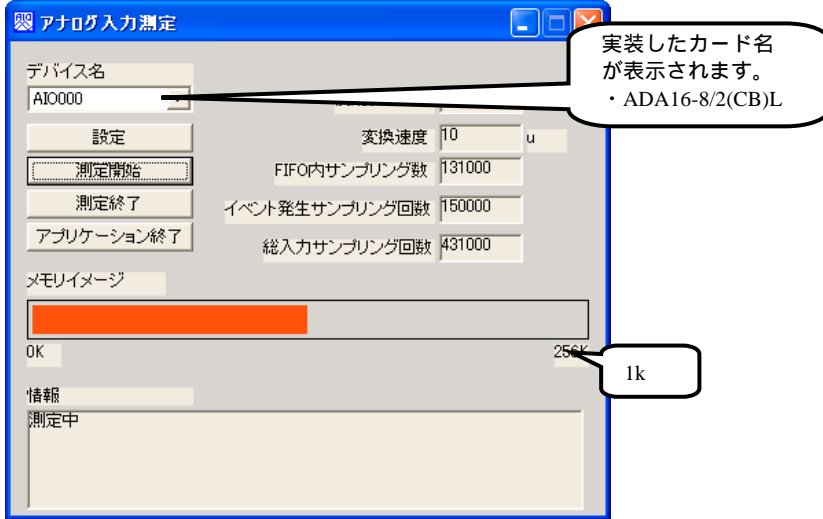
使用手順

- (1) デバイスのリストから、測定を行うデバイスを選択します。
- (2) 関数名が書かれたボタンをクリックすることで、関数の実行速度を測定します。
AioMultiAi、AioMultiAo関数では、変換に使用するチャンネル数をリストから選択してください。
AioGetAiSamplingData、AioSetAoSamplingData関数では、転送するデータサイズを入力します。
転送データはkByte単位で設定します。
- (3) [終了]ボタンでアプリケーションを終了します。

アナログ入力測定ツール

FIFOメモリで無限サンプリングを行うアナログ入力測定ユーティリティです。メモリ中の変換データが一定数まで溜まるとイベントが発生し、メモリ中のデータを取得します。FIFOメモリ内のデータを視覚的に確認することができます。

使用するチャンネル数、内部 / 外部クロック、変換速度、イベントを発生させるサンプリング回数の設定ができます。サンプリングクロックエラーイベント通知も行われるので、各種変換条件での変換スペック測定用として利用してください。



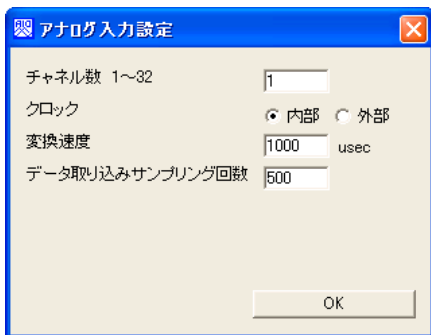
⚠ 注意

このプログラムはVisual Basicで作成されています。そのためVisual Basicがインストールされていない環境では、そのままでは実行できません。API-AIO(WDM)をインストールしたフォルダ以下から次のセットアップを実行することにより、プログラムが使用できます。

AIO\WDM¥Utility¥AiSpec¥setup.exe

使用手順

- (1) 左上のコンボボックスから、使用するデバイスのデバイス名を選択し、設定ボタンをクリックします。
- (2) アナログ入力設定の画面で、変換条件を設定します。
データ取り込みサンプリング回数に指定したサンプリング回数分まで入力が行われると、イベントが発生しデータを取得します。OKボタンをクリックすると条件が設定され、元の画面に戻ります。



- (3) 測定開始ボタンをクリックして、測定を開始します。変換中の各種状態が表示されます。
FIFO内サンプリング数：
メモリ中に取り込まれている変換データです。これは「メモリイメージ」で視覚的に確認できます。
イベント発生サンプリング回数：
FIFO内の入力サンプリング数がこの回数に達するとイベントが発生します。
総入力サンプリング回数：
アプリケーションにメモリに取り込まれた総サンプリング数です。

測定は、以下のエラーにより停止することがあります。

サンプリングクロックエラー：

内部クロックで変換を行っている場合、変換速度が速すぎてドライバでの処理が間に合わないことを意味します。

外部クロックで変換を行っている場合、クロックの周期が速すぎます。また、ノイズなどによる原因も考えられます。

バッファオーバーフロー：

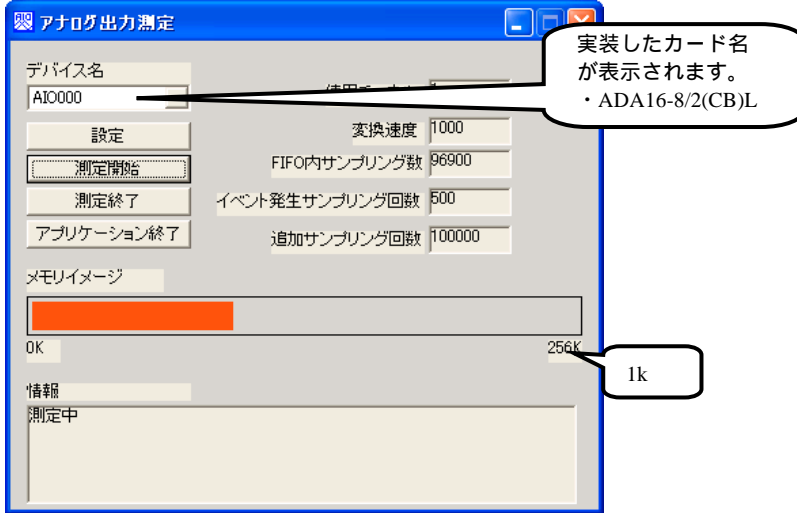
データを取り込む速度に対して変換速度が速すぎるため、メモリがオーバーフローしています。

- (4) 測定終了ボタンをクリックすると、測定を停止します。

アナログ出力測定ツール

FIFOメモリで無限サンプリングを行うアナログ出力測定ユーティリティです。メモリ中の変換データが一定数の残りになるとイベントが発生し、新たに出力データを追加します。FIFOメモリ内のデータを視覚的に確認することができます。

使用するチャンネル数、内部 / 外部クロック、変換速度、イベントを発生させるサンプリング回数、追加するサンプリング数の設定ができます。サンプリングクロックエラーイベント通知も行われるので、各種変換条件での変換スเปック測定用として利用してください。



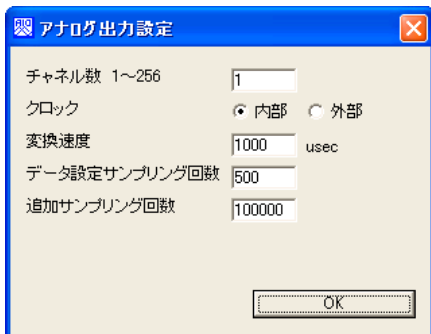
⚠ 注意

このプログラムはVisual Basicで作成されています。そのためVisual Basicがインストールされていない環境では、そのままでは実行できません。API-AIO(WDM)をインストールしたフォルダ以下から次のセットアップを実行することにより、プログラムが使用できます。

AIOWDM¥Utility¥AoSpec¥setup.exe

使用手順

- (1) 左上のコンボボックスから、使用するデバイスのデバイス名を選択し、設定ボタンをクリックします。
- (2) アナログ出力設定の画面で、変換条件を設定します。
データ設定サンプリング回数に指定したサンプリング回数分まで出力が行われると、イベントが発生しデータの追加を行います。OKボタンをクリックすると条件が設定され、元の画面に戻ります。



- (3) 測定開始ボタンをクリックして、測定を開始します。変換中の各種状態が表示されます。
FIFO内サンプリング数：
メモリ中に設定されている未出力変換データです。これは「メモリイメージ」で視覚的に確認できます。
イベント発生サンプリング回数：
FIFO内の未出力サンプリング数がこの回数に達するとイベントが発生します。
追加サンプリング回数：
イベント中で追加される出力データのサンプリング数です。

測定は、以下のエラーにより停止することがあります。

サンプリングクロックエラー：

内部クロックで変換を行っている場合、変換速度が速すぎてドライバでの処理が間に合わないことを意味します。

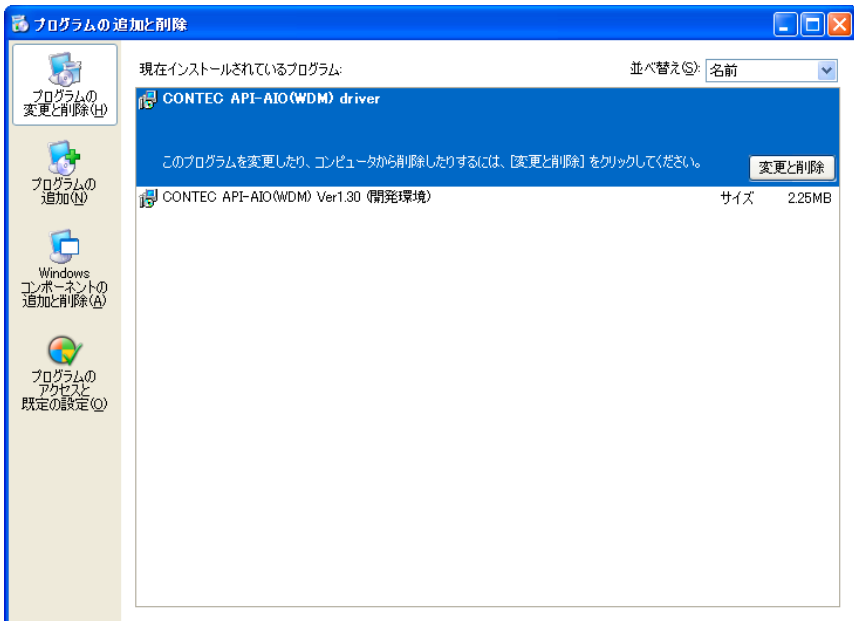
外部クロックで変換を行っている場合、クロックの周期が速すぎます。また、ノイズなどによる原因も考えられます。

- (4) 測定終了ボタンをクリックすると、測定を停止します。

ドライバライブラリのアンインストール

セットアップしたAPI-PAC(W32)をアンインストールするには、以下の手順で行ってください。

- (1) Windowsタスクバーの「スタート」ボタンをクリックし、メニュー「設定」-「コントロールパネル」を選択し、クリックします。
- (2) 「コントロールパネル」ウィンドウの中から「プログラムの追加と削除」をダブルクリックします。(Windows XP以外のWindowsでは「アプリケーションの追加と削除」になります。)
- (3) 表示されているアプリケーションの中から「CONTEC API-AIO(WDM) driver」と「CONTEC API-AIO(WDM) VerX.XX (開発環境)」を選択します。
「変更と削除」ボタンをクリックします。画面の指示に従って、適切にアンインストール作業を行います。



Linux版ソフトウェアについて

Linux版アナログ入出力ドライバ API-AIO(LNX)では、下記のような機能を実行する関数が用意されています。

- ・ 指定チャネルのアナログ入出力を行うことができます。
- ・ アナログ入出力ボードへの設定パラメータをデフォルト値で保存し、パラメータの設定なしで動作が可能です。

詳細については、ヘルプファイルを参照ください。ヘルプファイルには、「リファレンス」、「サンプルプログラム」、「用語集」などの情報を提供しています。プログラム開発やトラブルシューティングをご利用ください。

ドライバソフトウェアのインストール手順

Linux版アナログ入出力ドライバAPI-AIO(LNX)は、添付API-PAC(W32)CD-ROMの中の圧縮ファイル /linux/aio/caioXXX.tgz です。(注：XXXはバージョン)

CD-ROMを下記のようにマウントして、任意のディレクトリにファイルをコピーし、圧縮ファイルを解凍、インストールしてください。

使用方法の詳細は、インストール後に展開されるreadme.txt、およびHTML形式のヘルプファイルを参照してください。

なお、インストールに際してはスーパーユーザーで行ってください。

解凍～設定手順

# cd	
# mount /dev/cdrom /mnt/cdrom	CD-ROMをマウントします。
# cp /mnt/cdrom/linux/aio/caioXXX.tgz ./	圧縮ファイルをコピーします。
# tar xvfz caioXXX.tgz	圧縮ファイルを解凍します。
.....	
# cd contec/caio	
# make	ファイルをコンパイルします。
.....	
# make install	インストールします。
.....	
# cd config	
# ./config	使用するボードを設定します。
..... 以下設定	
# ./contec_aio_start.sh	ドライバを起動します。
# cd	

ヘルプファイルの参照方法

- (1) X-Window環境で、ブラウザを起動します。
- (2) ブラウザ上から、contec/caio/helpディレクトリのapitool.htmを開きます。

サンプルプログラムの利用方法

サンプルプログラムは、基本的な用途毎に用意しています。

サンプルプログラムは、contec/caio/samplesディレクトリの下に入っています。コンパイル方法などにつきましては、各言語のマニュアルをご参照ください。

ドライバのアンインストール

アンインストールは、contec/caioディレクトリにあるアンインストールシェルスクリプトにより行います。詳しくは、スクリプトの内容をご確認ください。

第6章 ハードウェアについて

本章では、ハードウェアの仕様およびハードウェアに関する補足情報を説明しています。

詳細技術情報の参照先

より詳細な技術情報(I/Oマップ、コンフィグレーションレジスタなどの情報を含む「テクニカルリファレンス」)は、ホームページ(<http://www.contec.co.jp/support/>)からご請求いただけます。

ハードウェア仕様

表6.1 仕様(1/2)

項目	仕様
アナログ入力	
絶縁仕様	非絶縁
入力方式	シングルエンド入力
入力チャネル数	8ch (シングルエンド入力)
入力レンジ	バイポーラ ±10V
最大入力電圧	±20V
入力インピーダンス	1M 以上
分解能	16bit
非直線性誤差 *1*2	±5LSB
変換速度	10 μ sec/ch(Max.)
バッファメモリ	1k Word
変換開始条件	ソフトウェア/外部トリガ
変換終了条件	回数終了/外部トリガ/ソフトウェア他
外部スタート信号	LVTTL (立ち上がり/立ち下がり信号エッジをソフトウェアで選択)
外部ストップ信号	LVTTL (立ち上がり/立ち下がり信号エッジをソフトウェアで選択)
外部クロック入力	LVTTL (立ち上がり/立ち下がり信号エッジをソフトウェアで選択)
外部ステータス出力信号	LVTTL 2点 サンプリングクロック出力
アナログ出力	
絶縁仕様	非絶縁
出力チャネル数	2ch
出力レンジ	バイポーラ ±10V
最大出力電流	±5mA
出力インピーダンス	1 以下
分解能	16bit
非直線性誤差 *1	±3LSB
変換速度	10 μ sec(Max.)
バッファメモリ	1k Word
変換開始条件	ソフトウェア/外部トリガ
変換終了条件	回数終了/外部トリガ/ソフトウェア
外部スタート信号	LVTTL (立ち上がり/立ち下がり信号エッジをソフトウェアで選択)
外部ストップ信号	LVTTL (立ち上がり/立ち下がり信号エッジをソフトウェアで選択)
外部クロック入力	LVTTL (立ち上がり/立ち下がり信号エッジをソフトウェアで選択)
外部ステータス出力信号	LVTTL 2点 サンプリングクロック出力

表6.1 仕様(2/2)

項目	仕様
デジタル入出力	
入力点数	非絶縁入力 4点 (LVTTL正論理)
出力点数	非絶縁出力 4点 (LVTTL正論理)
カウンタ	
チャンネル数	1ch
カウント方式	アップカウント
最大カウント数	FFFFFFFFh(バイナリデータ、32bit)
外部入力点数	LVTTLレベル 2点 (Gate/Up) Gate (Highレベル)、Up (立ち上がりエッジ)
外部出力点数	LVTTLレベル 1点 カウンタ一致出力(正論理/パルス出力)
応答速度 *3	10MHz (Max.)
共通部分	
I/Oアドレス	64ポート占有
割り込みレベル	1点
消費電流	3.3VDC 500mA (Max.)
使用条件	0・50、10・90%RH (ただし、結露しないこと)
対応PCカードスロット	PC Card Standard準拠CardBus
外形寸法(mm)	85.6(W)×54.0(D)×5.0(H) TYPE II
カード本体の質量	70g

*1: 非直線性誤差は周囲温度が0、50 の場合、最大レンジの0.1%程度の誤差が生じることがあります。
使用する環境の温度下で校正を行うことにより、誤差は小さくすることができます。

*2: 高速なオペアンプを内蔵した信号源使用時。

*3: ただし、デジタルフィルタを使用しない場合。

回路ブロック図

このPCカードの回路ブロック図を図6.1に示します。

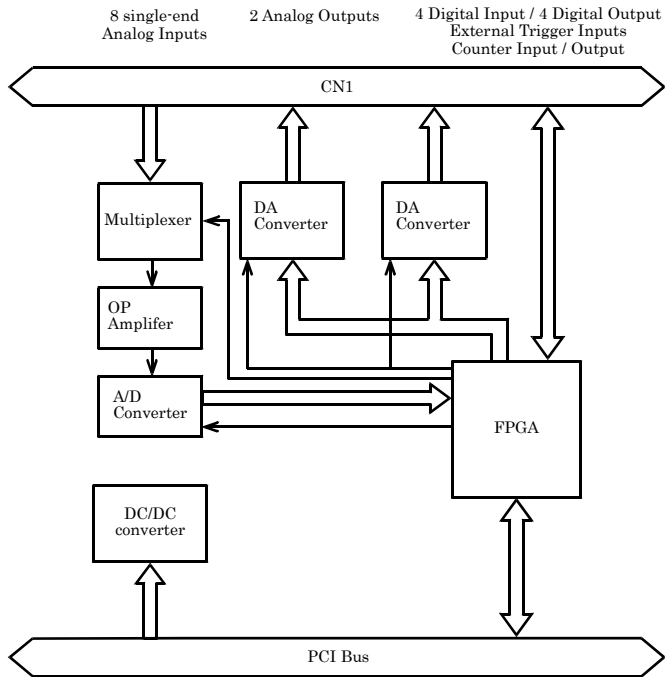


図6.1 回路ブロック図

制御信号の動作タイミング

アナログ入力機能の制御信号のタイミング

アナログ入力機能の制御信号のタイミングを図6.2、図6.3、図6.4、表6.2に示します。

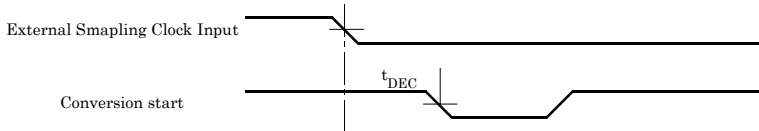


図6.2 外部サンプリングクロックのタイミング

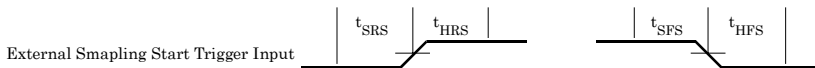


図6.3 サンプリング開始制御信号のタイミング

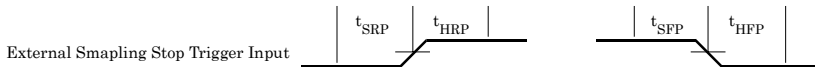


図6.4 サンプリング停止制御信号のタイミング

表6.2 制御信号の動作タイミング一覧

項目	記号	時間	単位
外部サンプリングクロックから最初のチャンネルのA/D変換開始パルスまでの遅延	t_{DEC}	100	nsec
サンプリング開始信号(立ち上がりエッジ)のセットアップタイム	t_{SRS}	100	nsec
サンプリング開始信号(立ち上がりエッジ)のホールドタイム	t_{HRS}	100	nsec
サンプリング開始信号(立ち下がりエッジ)のセットアップタイム	t_{SFS}	100	nsec
サンプリング開始信号(立ち下がりエッジ)のホールドタイム	t_{HFS}	100	nsec
サンプリング停止信号(立ち上がりエッジ)のセットアップタイム	t_{SRP}	100	nsec
サンプリング停止信号(立ち上がりエッジ)のホールドタイム	t_{HRP}	100	nsec
サンプリング停止信号(立ち下がりエッジ)のセットアップタイム	t_{SFP}	100	nsec
サンプリング停止信号(立ち下がりエッジ)のホールドタイム	t_{HFP}	100	nsec

⚠ 注意

表6.2の時間は、すべて典型値を表します。

アナログ出力機能の制御信号のタイミング

アナログ出力機能の制御信号のタイミングを図6.5、図6.6、図6.7、表6.3に示します。

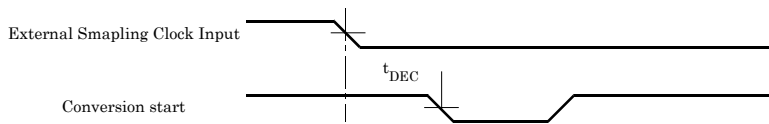


図6.5 外部サンプリングクロックのタイミング(アナログ出力)

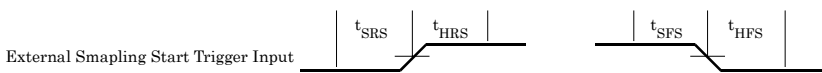


図6.6 サンプリング開始制御信号のタイミング

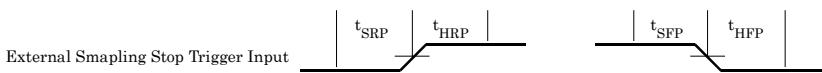


図6.7 サンプリング停止制御信号のタイミング

表6.3 制御信号の動作タイミング一覧

項目	記号	時間	単位
外部サンプリングクロックから整定開始までの遅延	t_{DEC}	100	nsec
セトリングタイム	t_{WS}	10000	nsec
サンプリング開始信号(立ち上がりエッジ)のセットアップタイム	t_{SRS}	100	nsec
サンプリング開始信号(立ち上がりエッジ)のホールドタイム	t_{HRS}	100	nsec
サンプリング開始信号(立ち下がりエッジ)のセットアップタイム	t_{SFS}	100	nsec
サンプリング開始信号(立ち下がりエッジ)のホールドタイム	t_{HFS}	100	nsec
サンプリング停止信号(立ち上がりエッジ)のセットアップタイム	t_{SRP}	100	nsec
サンプリング停止信号(立ち上がりエッジ)のホールドタイム	t_{HRP}	100	nsec
サンプリング停止信号(立ち下がりエッジ)のセットアップタイム	t_{SFP}	100	nsec
サンプリング停止信号(立ち下がりエッジ)のホールドタイム	t_{HFP}	100	nsec

⚠ 注意

表6.3の時間は、すべて典型値を表します。

カウンタ機能の制御信号のタイミング

カウンタ機能の入出力信号のタイミングを図6.8、図6.9、表6.4に示します。



図6.8 カウンタ入力信号のタイミング



図6.9 カウンタ出力信号のタイミング(パルス出力)

表6.4 制御信号の動作タイミング一覧

項目	記号	時間	単位
カウンタ入力信号(立ち上がりエッジ)のセットアップタイム	t_{SRC}	100	nsec
カウンタ入力信号(立ち上がりエッジ)のホールドタイム	t_{HRC}	100	nsec
カウンタ出力信号のパルス幅	t_{PSC}	1000	nsec

⚠ 注意

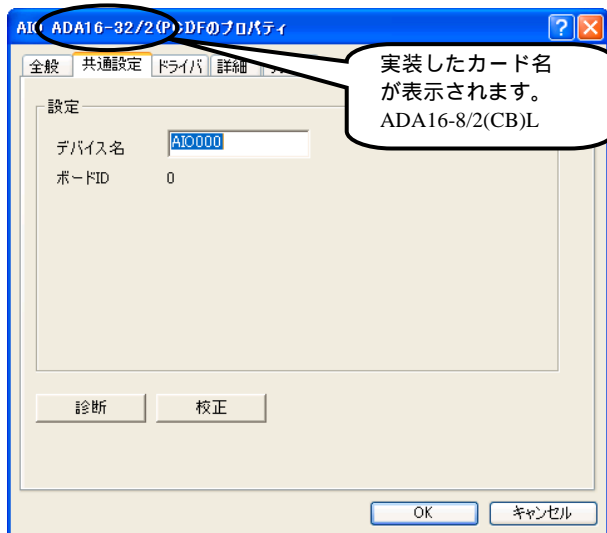
表6.4の時間は、すべて典型値を表します。

校正について

このPCカードは出荷時に校正してありますが、校正プログラムを使って、アナログ入力と、アナログ出力の校正を行うことができます。

校正プログラムの起動

デバイスのプロパティページから[校正]ボタンをクリックして、校正プログラムを起動します。



以降は、校正プログラムの指示する手順で、校正機器の接続と調整を進めてください。

アナログ入力の校正

アナログ入力の校正には、基準電圧発生器を使用します。

16ビット分解能のため、小数点以下5桁までの精度を持つ機器を使用してください。

任意の1チャンネルのみ校正してください。

アナログ出力の校正

アナログ出力の校正には、デジタルマルチメータを使用します。

16ビット分解能のため、小数点以下5桁までの精度を持つ機器を使用してください。

使用するチャンネルごとに校正が必要です。

出荷時設定

校正プログラムでは、出荷時設定に戻すことができます。

万一所定の性能が得られない場合は、総合インフォメーションまでお問い合わせください。

改訂履歴

年 月	改訂内容
2004年11月	仕様部の誤記訂正、およびVCCIに関する記述を追加
2006年7月	サポートソフトウェアおよびアクセサリの追加

ADA16-8/2(CB)L 説明書

発行 株式会社コンテック 2006年7月改訂

大阪市西淀川区姫里3-9-31 〒555-0025

日本語 <http://www.contec.co.jp/>

英語 <http://www.contec.com/>

中国語 <http://www.contec.com.cn/>

本製品および本書は著作権法によって保護されていますので無断で複写、複製、転載、改変することは禁じられています。

[07272004]

分類番号 A-46-877

[07052006_rev3]

部品コード LYDV971